

14. 2ハ-88  
1200501165606  
14.2ハ  
3



始



6. 3. 6

昭和四年釜山港貿易概覽

釜  
山  
稅  
關

14.2ハ-88

例言

- 一、本書の調査は特記せるものゝ外總て曆年度に従ひ、昭和元年には大正十五年の分を含む。
- 二、本書中内地と稱するは臺灣、樺太、南洋諸島をも含めり。
- 三、本書掲記の國名及地名は輸出にありては仕向國、輸入にありては生産國、移出は仕向地、移入は仕出地とす。而して移入品中には内地に於て輸入手續を爲したる外國産品を含み、輸出品中には朝鮮へ移入したる内地産品を含む。
- 四、輸出入品中には當港に於て通關手續を爲したる陸接國境經由貨物をも計上せり。
- 五、昭和三年釜山港貿易概覽に掲載したる計數等にして本書を以て訂正せるものあり。



發行所寄贈本

昭和三年釜山港貿易概覽本

# 昭和四年釜山港貿易概覽目次

## 第一 總說

〔一〕 輸移出貨物貿易 ..... 一

〔二〕 輸移入貨物貿易 ..... 一七

## 第二 外國貿易(貨物)

〔一〕 概說 ..... 三三

〔二〕 輸出貨物貿易 ..... 三六

### ◎輸出重要品

三 煮乾鰻 ..... 四一

鹽魚 ..... 四六

淡菜 ..... 四九

乾蝦 ..... 五〇

蟻鱈 ..... 五三

海參 ..... 五五

目次

發行所 本館

清酒	五七
罐詰 罐詰及壺詰食物	五八
地下足袋	六三
黒鉛	六四
陶磁器	六六
輸入貨物貿易	六九
◎輸入重要品	
米及粃	七六
粟	七九
黍	八一
豆類	八二
胡麻子	八四
天日鹽 <small>(碎カサルモノ)</small>	八五
葉煙草	八七
原油及重油	八八

揮發油	九一
燈油	九三
機械油	九五
輕油	九七
パラフキンワックス	一〇〇
支那麻布	一〇一
石炭	一〇二
硝子板 <small>(無色平面ノモノ)</small>	一〇四
機械類	一〇六
木材	一〇八
豆糟	一一二
國別貿易	一一三
支那	一一四
香港	一一八
英領印度	一二九

英領海峽殖民地 ..... 一二〇

蘭領印度 ..... 一二一

佛領印度 ..... 一二二

露領亞細亞 ..... 一二三

比律賓諸島 ..... 一二四

暹羅 ..... 一二五

英吉利 ..... 一二六

佛蘭西 ..... 一二九

獨逸 ..... 一二九

瑞西 ..... 一三〇

西班牙 ..... 一三一

北米合衆國 ..... 一三二

加拿陀 ..... 一三五

濠太刺利 ..... 一三六

保稅工場 ..... 一三七

第三

內地貿易(貨物)

〔一〕概說 ..... 一三八

〔二〕移出貨物貿易 ..... 一四一

◎移出重要品

米及粳 ..... 一四九

概況 ..... 一五〇

玄米 ..... 一六五

精米 ..... 一七一

碎米 ..... 一七五

大豆 ..... 一七七

鮮魚 ..... 一八五

乾鱈 ..... 一九〇

明太魚卵 ..... 一九一

海苔 ..... 一九三

林檎 ..... 一九七

栗	二〇〇
蒲 鉾	二〇三
牛 皮	二〇五
魚 油	二〇八
繰 綿	二一〇
家 蠶 繭	二一三
生 絲	二一六
柞 蠶 生 絲	二一九
牛	二二二
木 材	二三〇
木 炭	二三二
海 藻	二三五
肥 料	二三八
小包郵便物	二四三
移入貨物貿易	二四三

◎ 移入重要品

大麥及裸麥	二五九
小麥粉	二六一
砂 糖	二六三
清 酒	二六五
麥 酒	二六六
燒 酎	二六八
柑橘類	二七〇
乾明太魚	二七二
コンデンスドミルク	二七四
清涼飲料	二七六
安全燐寸 <small>(小箱入)</small>	二七八
繰 綿	二七九
打 綿	二八〇
綿織絲	二八二



綿縫絲 ..... 二八四

毛 絲 ..... 二八六

生金巾、生シーチング及生細布 ..... 二八八

晒金巾、晒シーチング及晒細布 ..... 二九〇

白木綿 ..... 二九三

縞及緋木綿 ..... 二九五

ジーンズ ..... 二九六

綿 襦子 ..... 二九八

毛織物 ..... 二九九

絹織物 ..... 三〇二

漁網及漁網地 ..... 三〇五

和 服 ..... 三〇七

洋 服 ..... 三〇八

護謨靴 ..... 三〇九

洋 紙 ..... 三一

第四

金銀地金貿易

和 紙 ..... 三二三

セメント ..... 三二五

陶磁器及其他ノ粘土製品 ..... 三二七

鐵 類 ..... 三一八

銅 ..... 三二三

錫 ..... 三二四

洋鐵釘 ..... 三二五

絶縁電線 ..... 三二七

自動車及同部分品 ..... 三二九

自轉車及同部分品 ..... 三三〇

藁 吹 ..... 三三二

洋 傘 ..... 三三三

硫安肥料 ..... 三三四

小包郵便物 ..... 三三六

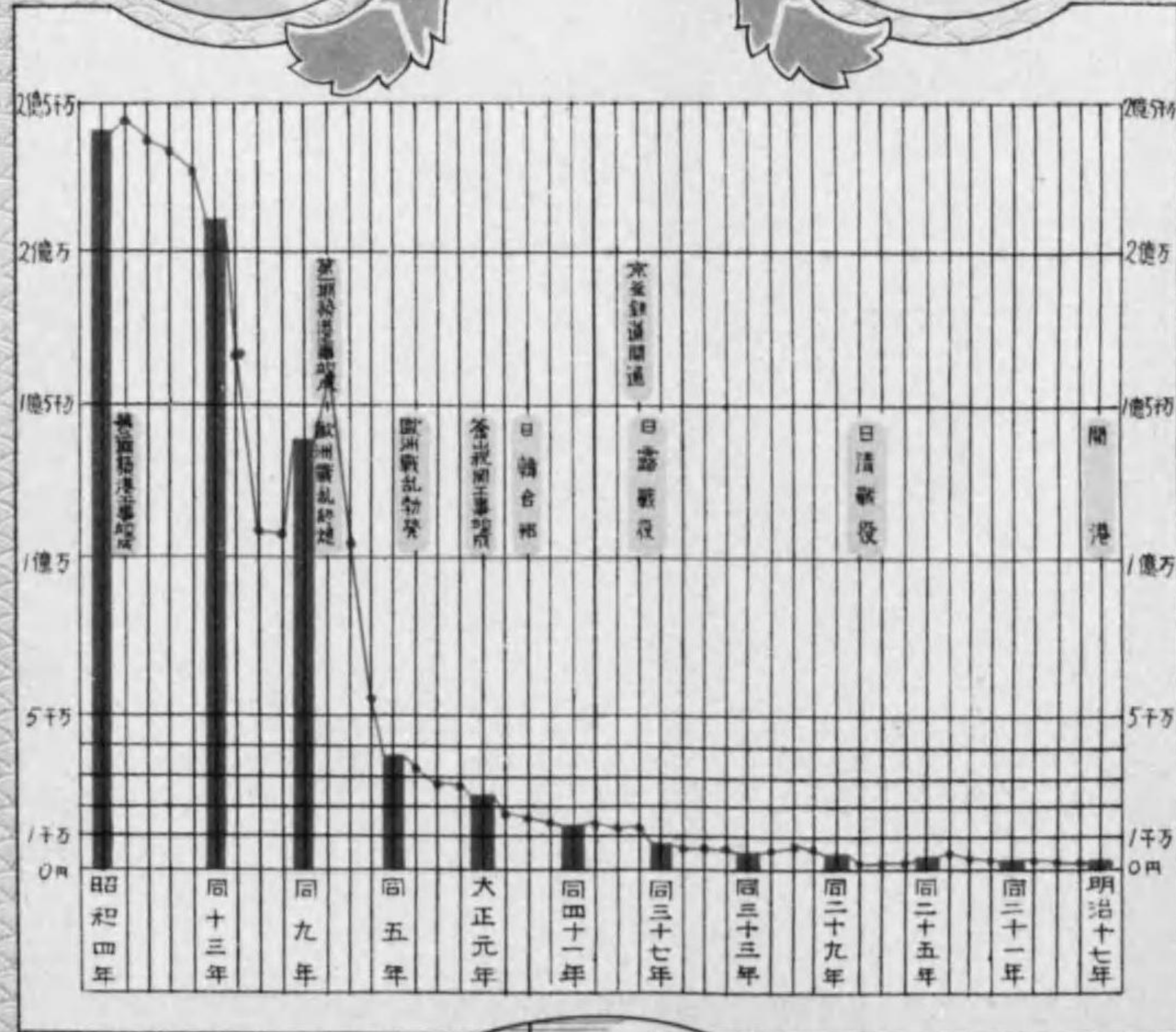
金銀地金貿易 ..... 三三七

第五	通過貿易	三四一
第六	加工貿易	三五四
第七	保稅倉庫	三五九
	私設保稅倉庫	三五九
第八	保稅工場	三六三
	私設保稅工場	三六三
第九	運輸交通	三六七
	船舶	三六七
	貨物	三七九
	(A) 貿易貨物	三七九
	(B) 鐵道貨物	三八四
	運貨	三九三
	(A) 旅客	三九五
	(B) 船舶旅客	三九五

第十	(B) 鐵道旅客	三九九
第十一	稅關收入 (本關)	四〇〇
	管內各地貿易關係諸計表	四〇四

木浦	四〇四
大邱	四一五
馬山	四二三
鎮海	四三一
統營	四三六
麗水	四三九
城山浦	四四二
方魚津	四四五
浦項	四四七
道洞	四五〇
稅關所在地外不開港 (慶尙南道、慶尙北道)	四五二
稅關收入 (管內支署及出張所)	四五四

# 釜山港の貿易

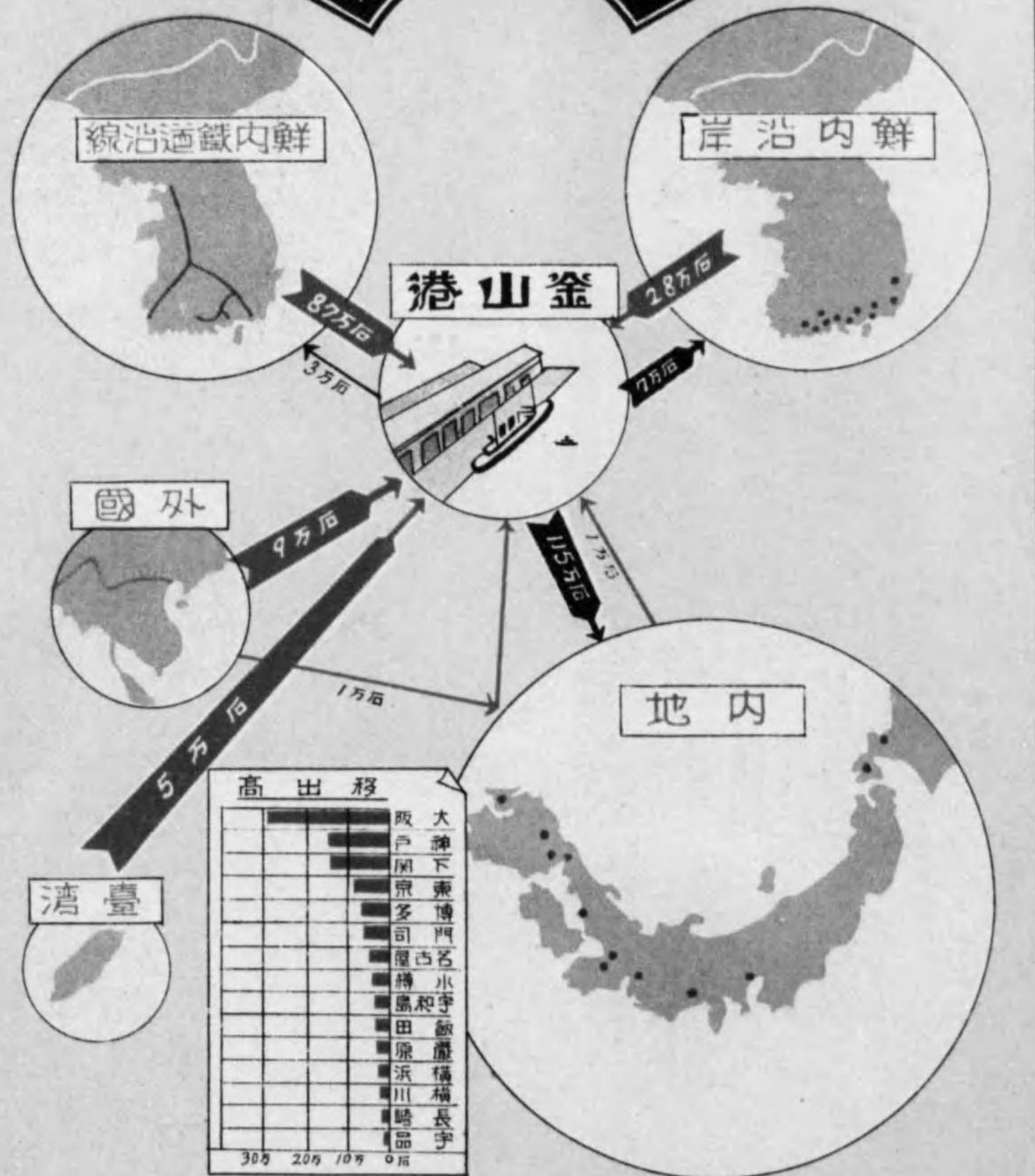


第十一 管内各港貿易品別対外貿易  
 第十 管内各港貿易品別対内貿易  
 第九 管内各港貿易品別対外貿易  
 第八 管内各港貿易品別対内貿易  
 第七 管内各港貿易品別対外貿易  
 第六 管内各港貿易品別対内貿易  
 第五 管内各港貿易品別対外貿易  
 第四 管内各港貿易品別対内貿易  
 第三 管内各港貿易品別対外貿易  
 第二 管内各港貿易品別対内貿易  
 第一 管内各港貿易品別対外貿易

昭和四年

# 米集散

釜山港



# 昭和四年釜山港貿易概覽

## 第一、總 說

釜山港に於ける昭和四年中の貨物貿易額は、輸移出一億九百七十萬餘圓、輸移入一億三千三十八萬餘圓、合計二億四千九萬餘圓にして、前年に比し輸移出九百二十三萬餘圓の減退、輸移入五百三十三萬餘圓の増加、合計三百八十九萬餘圓の減退を告げ、又金銀地金の貿易額は、輸移出五百八十六萬餘圓、輸移入五萬餘圓、合計五百九十二萬餘圓にして、前年に比し輸移出二百四十五萬餘圓の増加、輸移入三十四萬餘圓の減退、合計二百十萬餘圓の増進を示し、更に之等貿易額の總計にあつては、輸移出一億一千五百五十七萬餘圓、輸移入一億三千四十四萬餘圓、合計二億四千六百一萬餘圓にして、前年に比し輸移出六百七十八萬餘圓の減退、輸移入四百九十八萬餘圓の増加、合計一百七十九萬餘圓の減退を告げ、貿易の權衡に於ては一千一百七十七萬餘圓の輸移入超過を算した。

貿易額種別二年比較表 (圓)

種別	昭和四年		昭和三年		増減(△)	同上歩合
	輸出入	移出	輸出入	移出		
物	輸出	1,744,575	1,788,776	44,201	2.5%	
	移出	107,955,061	117,666,465	9,711,404	9.0%	
物	輸入	109,707,376	118,495,192	8,787,816	7.9%	
	移入	9,100,842	10,445,556	1,344,714	14.7%	
物	合計	219,009,998	237,099,833	18,089,835	8.2%	
	超過(入△)	210,277,276	226,100,775	15,823,499	7.5%	
地金	輸出	5,862,695	3,808,296	2,054,399	34.9%	
	移出	5,862,695	3,808,296	2,054,399	34.9%	
地金	輸入	5,862,695	3,808,296	2,054,399	34.9%	
	移入	5,862,695	3,808,296	2,054,399	34.9%	
地金	合計	11,725,390	7,616,592	4,108,798	34.9%	
	超過(入△)	11,725,390	7,616,592	4,108,798	34.9%	

種別	昭和四年		昭和三年		増減(△)	同上歩合
	輸出入	移出	輸出入	移出		
合計	輸出	1,744,575	1,788,776	44,201	2.5%	
	移出	107,955,061	117,666,465	9,711,404	9.0%	
合計	輸入	109,707,376	118,495,192	8,787,816	7.9%	
	移入	9,100,842	10,445,556	1,344,714	14.7%	
合計	合計	219,009,998	237,099,833	18,089,835	8.2%	
	超過(入△)	210,277,276	226,100,775	15,823,499	7.5%	

回顧するに、我國の財界は未曾有の混亂を呈せる一昨年の後を受けて漸く之が整理も大体其の緒に就き、更に本年は金解禁と云ふ基本的の問題を繞つて總てが劃策せられ順應せられたものと云ふ可きであつたが、幸に内外諸般の準備は天佑的に順調に進行したので、遂に十一月二十一日の金解禁豫告となり、多年の懸案も茲に解決を告ぐるこゝとなつた。併し乍ら爲替の回復は、絲價の下落、綿絲布の輸出不利等を招き物價の下落と共に國內に於ける緊縮節約の徹底は物資の消費を減退せしめ、遊資は遍在すれ共事業資金の需要は興らずして不景氣は益其の度を深めたかの如くにも見わたれ共、之を歸趨點より觀れば、將來に備へむが爲の準備として亦止むを得ざるの道程に過ぎず、大勢は寧ろ當然の經路を辿りつゝあつたものと云はねばならぬ。次に朝鮮の財界は内地と其の基調を同ふするのであるが、産業の大宗たる米は内地が引續きての豊穰なるに

反し、鮮内は前年の作柄不良なりしに加へて本年も旱害を蒙つて略大差無き減收を告げ、之が爲相場は安く移出は振はずして農民の購買力を著しく減殺し、又棉も前年の豊作に反し本年は旱害の爲稍減收を報せられたが、蠶業は逐年的に發達し、鑛業界は緩歩的乍ら好轉の傾向を示し、漁業界も大体順調にあり、加ふるに始政二十年を紀念する大博覽會の開催せられたるに因つて人氣は尠ならず引立つた様でもあるが、結局實勢に於て好況を辿つたものとは思はれず、特に旱害の甚しかつた南鮮方面に此の傾向の認められたのは否定し難き事實であつた。

而して本港の輸出貿易上、唯一の對象國とも云ふ可き支那に對しては、銀塊の下落や、二月實施せられた輸入税増率の影響等も無いではなかつたが、案せられた日支交渉が漸く調印を見たので、海産物の取引漸次好轉し、且つは年初浦項方面に於ける鯨の豊漁にも基因して輸出貿易は増進した。併しながら叙上の通り鮮内の米作は引續き不良で、而も本港の主要商圏たる慶南、慶北が特に減收を示した爲、年初や端境期には却つて内地米、鮮米等に移入すると云ふ状態にあつたから、本港移出米の減退したのは當然であつて總額一百四十萬九千餘石を出荷したに過ぎず、不振なりし前年に比するも尙五十一萬八千餘石を出減すると云ふ不況を示した爲、産繭の増加に基く繭、生絲或は好漁と豊作とに因る煮乾鰻、海苔等好況を示せるものもあつたに拘らず、移出貿易の大勢を悪化せしめたのは遺憾であつた。又鮮米の割安と云ふ根本的の打撃に因つて外米粟、内地麥等の代用食糧が兎角賣行鈍く、而も鮮内事業者の不況に基因して機械類、鐵類、セメント等の輸移

入振はず、且つ奥地購買力の減退や鮮内生產品の壓迫に因り入減したものに、綿絲布、護謨靴等もあつたが露領沿海州木材は樺太木材の入荷不圓滑、産地安等を材料として輸入増加し、揮發油は本年四月の朝鮮關稅特例撤廢以降、内地稅濟品を取引する傾向を生じた爲輸入減、移入増の結果を招來し、又米の不作に反して金肥の需要は益普及せむとして、硫安、石灰窒素等肥料の輸移入は年を追ふて増進し、其他近年著増しつゝあるものに、人絹織物、自動車、洋服、和服、地下足袋等があつて、時勢の流れを物語つて居り、内地産業の進歩、國産品需要の趨向等と相俟つて輸入を減少し、移入を増加したが、右に挙げたものゝ外、主要品の消長を擧ぐれば、輸出に於ては煮乾鰻、淡菜、乾鰻、鱈、海苔、鮑罐詰、蟹罐詰、黑鉛、履物、小包郵便物等増加し、大豆、鹽鯖、明太魚卵、海參、清酒、藁吹等減退し、移出にあつては大豆、鮮魚、鹽魚、砂糖、牛皮、柞蠶生絲、緋木綿、牛、肥料糠等出減したが、明太魚卵、乾鰻、林檎、栗、蟹罐詰、毛皮、繰綿、肥料魚糟、小包郵便物等増し、輸入にあつては鹽、葉煙草、輕油、石炭等不況を示したが、黍、原重油、燈油、繰綿等好況を告げ、移入に於ては麥酒、燒酎、柑橘類、明太魚、繰綿、綿織絲、綿縵子、洋紙、石炭、生護謨、小包郵便物等入増したが、砂糖、清酒、鹽、鹽魚、葉煙草、燐寸、打綿、白木綿、陶磁器等は入荷減退した、尙之等の外前年と略逕庭なかりしものもあり、又數量に比し價額を減退せるもの尠ならずして物價下落の影響は貿易を通じて見逃す可らざる現象でもあつた。

既往十年間に於ける貿易の消長を表示すれば左の如くであるが、開港初年たる明治十七年の輸移出入額六十

一萬餘圓に比較すれば實に霄壤の差がある。

貨物貿易額十年對照表 (圓)

年次	輸移出入合計	出超額(入△)
昭和四年	二〇九,七九,六六六	△ 二〇,六七,七三六
昭和三年	二八,九四,一九一	△ 六,一〇四,三七三
昭和二年	二六,三九,七一九	△ 一,〇〇一,三〇一
昭和元年	二四,七二,四一九	九,五三〇,〇九七
大正十四年	二四,〇〇,三三三	二〇,四六八,〇四三
同十三年	二八,〇五,六四六	三三,二四九,四六九
同十二年	九三,七三,九七五	二〇,一五五,五八八
同十一年	九,三〇,四一九	二,八七六,〇五三
同十年	六四,〇五九,八九七	一三,四九九,一一八
同九年	七五,〇〇四,五三六	二〇,三五二,〇四九

備考 一、以下の各表も特に明記せるもの、外、金銀地金類の貿易額を含みます。

二、大正十二年四月以降は關稅制度の改正に伴ふ貿易統計取扱方の變更に依り、當港を經由する無申告貨物の大部分は當港の貿易額に含む事となつたから、同年以降の貿易額は數字的に急激なる膨脹を來した。

全鮮港別貿易額五年對照表 (圓)

港別	昭和四年	千分比例	昭和三年	千分比例	昭和二年	千分比例	昭和元年	千分比例	大正十四年	千分比例
釜山	二四〇,〇九六,九六八	三三三	二四三,九九四,七五五	三三三	二四一,七九六,一五九	三三六	二三九,九三三,一四一	三三六	二二七,六三二,六三三	三三三
木浦	三七,〇九二,二〇〇	四八	三三,七五九,五三二	四四	三三,三六五,一一四	四四	三五,二八九,七五七	四九	三三,五七三,五九八	四九
大邱	三,九三三,四一一	五	四,六六四,九七〇	六	五,四七〇,三七五	七	五,二九一,二六八	七	五,六七八,一六六	八
馬山及鎭海	一一,四六五,九六八	一五	一一,四七三,七七七	一六	九,〇八六,三九九	一二	八,五五五,二七七	一一	九,四三六,三三〇	一四
仁川	一一〇,七六六,五三三	一七〇	一一〇,〇一六,七七七	一四〇	一一三,〇四一,六三三	一七六	一一七,八六六,八七〇	一七四	一一三,〇三二,八三七	一六一
京城	三,九三三,八七三	五	三,九〇七,九〇八	五	三,九三二,九三三	五	三,九〇一,七〇一	五	三,〇二六,〇九四	四
群山	五三,四三〇,四六五	六八	六二,八八二,七〇四	八〇	六五,九九九,一四八	八八	六六,六三三,二五一	九	六五,〇八〇,一一一	八三
元山	二六,二四八,九三〇	三五	三三,四五一,四七五	四四	二七,四〇五,四三三	三六	二六,九二二,五七一	三七	二二,三三三,四七七	三二
城津	七,〇五七,二七七	九	六,七九七,四三三	九	八,七八一,八五五	一一	七,五三三,二七〇	一〇	五,三三一,四一九	八
清津	二七,二四一,一一三	三五	二四,五三三,三六八	三三	三三,三三三,九七七	四四	一九,三七一,六四七	二六	一七,五五五,四六二	二六
雄基	七,七五三,一七六	一〇	七,三七八,八三二	九	六,六六七,七五五	九	五,八二七,一四八	八	四,三九九,八二六	六
新義州	六三,九三一,四六八	八三	六〇,九二四,〇一一	七六	六〇,八三〇,九〇〇	八二	六六,四三三,九〇四	九〇	六一,九九九,九九五	九二
龍岩浦	六,一〇八,六三二	八	三,二九九,七〇三	四	四,三四三,〇一九	六	八,六四三,三三六	一一	二,〇〇一,〇五〇	四
鎮南浦	七二,六三三,四八八	九三	六七,〇八五,三六〇	八六	五八,六三三,七四四	七九	五六,二四四,六〇六	七七	五〇,四三三,八七九	七四
平壤	二〇,三四一,八二七	二六	二〇,〇〇一,二二三	二六	一六,二六六,三九九	二二	一四,二九二,四七九	一九	一四,七七三,三三三	二二



其他	三六、八四〇、四八五	三六、四四二、八四一	二六、七三三、五二一	二四、三三三、八五五	一〇、七七三、三三三
合計	七六、八四二、四八五	七六、九三三、七三三	七四、四四二、八四一	七三、三三三、八五五	六八、四四二、四八五

〔一〕輸移出貨物貿易

本年の輸移出貨物貿易額は、既記の通前年に比し輸出約四割を増加し、移出約八分を減退し、合計に於て約八分の減少を告げたが、輸出と移出との比は二と九十八とに相當して居る。而して此の輸移出貿易を類別價額に就き調査するに、絲纒繩索布帛類は三千九百餘萬圓を算し總額の約三割六分に當りて第一位を占め、前年第一位にありし穀物穀粉澱粉類は三千二百餘萬圓にして次位に下り、之に亞ぐものは水産物の一千一百餘萬圓、小包郵便物の九百餘萬圓等で、前年に比し絲纒繩索布帛類及水産物は共に二百餘萬圓、小包郵便物は一百餘萬圓を各増加したが、穀物穀粉澱粉類は一千四百餘萬圓を著減した。

輸移出貨物貿易額類別五年對照表 (圓)

類別	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年
穀物、穀粉、澱粉類及種子	三三、六〇〇、四〇三	四七、四七三、三三三	五六、三三三、〇二五	五三、八四九、四九二	五三、八四九、四九二
飲食物及煙草					

類別	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年
水産物	一一、〇五五、四六九	八、六九九、〇二二	八、八二二、八六八	八、二六六、四九五	七、九五五、五八〇
其他ノ飲食物	一、〇八一、〇一〇	二、七〇三、八九二	三、五七一、五二二	一、九七二、九六三	二、五三四、八四三
煙草	一、〇〇一	六七四	一一五	一八五、九二八	一一〇
計	一三、〇六七、四七九	一一、三九一、九一八	一二、三六六、四九五	一〇、五二四、四八五	一〇、五二四、四八五
皮毛骨角牙殼類及同製	一、三六三、三三九	一、四一八、四一七	一、〇〇〇、二九七	一、一三三、五九九	一、一三三、五九九
油脂蠟同製品、藥材、化學藥類、染料及塗料	一、〇一五、〇五二	一、〇四三、五七五	七九七、七三三	七二五、一五九	四六四、四八九
絲纒、繩索、布帛、衣類及同附屬品	三九、一三〇、五八八	三三、一〇〇、五七七	三四、七四五、九四四	三六、五三二、五九一	四一、一五九、〇〇四
礦物、鑛、金屬及同製品	一、八七六、四〇二	一、四四七、三六三	一、三三七、三五〇	一、三六六、四五六	一一〇、一三九、五
雜品	一〇、〇七二、七九六	一〇、七四四、七五九	九、一二五、二九四	九、二九五、〇六三	九、〇五五、一〇六
小包郵便物	九、四三三、四七四	八、三三三、七〇九	一〇、六八七、九七六	九、三三〇、三三三	六、二七六、二五五
通計	一〇、九七〇、四三三	一一、八二四、三九八	一二、三六六、四九五	一二、三六六、四九五	一二、三六六、四九五
再輸出品	八、一四四	三、七九三	一、六一四	九四、三六九	六、三三〇、一一〇
全計	一〇、九七〇、四三三	一一、八二四、三九八	一二、三六六、四九五	一二、三六六、四九五	一二、三六六、四九五

輸移出各品の消長に關しては概要既記の如くであるが、之を更に輸移出として前年と比較對照するに、本港の輸移出貿易上、最も樞要の位置を占むる米の移出が叙上の理由に因つて本年は五十一萬八千餘石の減退を示し、而も相場下落に基く價額減少の影響もあつて實に一千四百四十四萬餘圓の輸移出減を告げた事が、本港の總貿易上にも最大暗影を投じたる所以である。此の外主要品としては柞蠶生絲、牛も相當減退し、大豆

鮮魚、鹽魚、鱧鱒、海參、砂糖、蒲鉾、牛皮、人蔘、緋木綿、海藻、肥料、糠等も夫々不況を示したが、増加せるものには生絲の三百八十九萬餘圓を筆頭に、乾魚、明太魚卵、淡菜、乾鰯、林檎、栗、鮑罐詰、蟹罐詰、毛皮、線綿、繭、黒鉛、陶磁器、鐵、時計學術器、諸機械類、肥料魚粕、小包郵便物等があり、又數量を増したるに反し價額を減退したるものに、鯖罐詰、板材、木炭等があり、其他相場下落の關係上數量の増加に比し價額の増加相比例せざるものも相當あつた。

而して之等消長の理由に就ては後項に譲り、左に之が詳細を表示する。

輸移出貨物數量價額種別二年比較表

品名	單位	數量		價額	
		昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
支米	石	六六四、四七五	八九一、七九	二七、三〇四	六、一四八、四九五
精米	同	四六六、二三三	七四、五六八	二六八、四五六	三、八〇〇、三五三
及米	同	三九	八三	四三	七、八六、〇九二
碎米	同	六、四〇二	一五、一九四	八、七九三	一、〇九、一五三
其他	同	二、六五六	二六、四七五	一三、八一九	二六、九、一〇九
計	同	一、一四九、八〇三	一、六六八、一〇八	五八、三〇五	一、一四七、九〇九
支米換算	同	一、一〇一、三〇〇	一、七五一、三七九	五四九、〇七九	一、四四三、八八七

品名	單位	數量		價額	
		昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
大豆	同	七三、五〇六	九四、四〇八	一〇、九〇三	一、五五五、一〇七
小豆	同	八、〇三三	九、一四五	一、一三三	一八五、八九〇
水産物	斤	二、四八、七五八	四、七五、一六七	一、七六、四一九	一、一四七、九〇九
鮮魚	同	八、五三一、三七〇	六、九二、四八九	一、六九、八二一	二、二九八、〇六七
煮乾鰯	同	一、六〇八、七九	一、三六、九六二	二九一、八七	二七九、八四三
乾魚	同	二、三三、一九七	二、一〇九、九四四	二、九七三	七四九、二六五
其他	同	三、三三、〇六六	一〇、四八、三九五	一、九四、六七一	三、三三、一七三
鹽魚	同	四、五四、九〇〇	五、二七、〇六一	七三、一六二	四六二、二五八
明太魚卵	同	一、七二、五六二	一、四九、一七九	三三、三六三	四、五、一四五
淡菜	同	三三、二四四	二二、四八四	一九、三三〇	一、六、一三三
乾鰯	同	五、六六、九三七	三、七九、二一〇	二〇七、七七	一、七五、九〇七
鱧鱒	同	四七、九四八	七五、二五五	二七、三〇七	七五、三二九
海參	同	七〇、一九九	一三二、七四	六二、五五五	一四〇、九七四
生鮑	同	八二、七三六	八八、八九三	七、一六	一〇五、〇七八
海苔	同	一、〇四、三九八	六六一、二五四	三三、二〇四	一四、〇、七七八
其他ノ水産物	同	—	—	—	—
計	同	—	—	—	—
砂糖	斤	二、四三、三三三	三、二九、四七三	七五、五五〇	六六二、〇八四





港別	昭和四年		昭和三年	
	輸出	移出	輸出	移出
三 月	一七二,八四二	一六八,四八三	四,三五八	八,九四三,六九八
四 月	二二六,九五三	一七六,三七〇	六〇,五八三	九,二八二,四八三
五 月	一五九,〇八三	一四一,六五五	一七,四二八	七,九六一,二二七
六 月	五三,六九二	四三,六九二	一〇,〇〇〇	八,〇三九,〇一五
計	九〇七,〇〇八	七九七,一八〇	一四七,七二八	三九,三三三,九四四
七 月	九四,七八五	五〇,九六六	四三,八一三	七,八八六,七三六
八 月	一八八,九二一	五二,九七七	一三七,〇〇〇	八,〇〇九,五九八
九 月	一〇一,五三三	一〇六,一三〇	五,五九七	八,〇五七,八二七
十 月	一四二,二六四	一〇四,〇二六	三八,二三三	八,九四九,〇三三
十一月	一五三,三二六	八八,三三五	六五,九九一	一〇,一四二,四四五
十二月	八四,八五七	一〇八,四三二	二三,五六五	一四,四九三,三〇〇
計	八七七,五七七	四八九,四八六	三〇八,一三三	五八,一五三,五九三
合 計	一,七四四,五七五	一,二四八,七三六	一〇七,九四五	二二七,六六八,四六六
平 均	一四四,六一一	一〇四,〇六一	八,三三〇	八,九七九,〇〇八

全鮮港別輸移出貿易額二年對照表 (圓)

港別	昭和四年		昭和三年	
	輸出	移出	輸出	移出
釜 山	一,七四四,五七五	一,二四八,七三六	一〇七,九四五	二二七,六六八,四六六

港別	昭和四年		昭和三年	
	輸出	移出	輸出	移出
木 浦	三三,六五三	三三,六五三	三,八三三,〇七〇	三,八三三,〇七〇
大 邱	四四,六七四	四四,六七四	七,五九九	六五,七三九
馬 山 及 鎮 海	一一,七七五	六,二四一,九八二	六,二四一,九八二	四二,八九四
仁 川	五,一〇八,九六六	四二,三六七,一九二	四七,四六六,〇八八	四,一六四,五九八
京 城	四〇四,六三三	二六〇,九九七	六六五,六一九	三三,一八九
群 山	九八,八八九	三三,二四四,〇〇〇	三三,二四四,〇〇〇	八二,三六二
元 山	三九二,四五六	七,〇八八,三六七	七,〇八八,三六七	四四,二八二
城 津	一一,八四四	三,八一九,六五九	三,八一九,六五九	四,二二〇
清 津	一一,〇〇,六一一	一〇,九五六,六四〇	一三,一七三,三六一	一,五五三,〇五三
雄 基	二,〇四三,一〇九	一,七九五,〇〇〇	三,八三六,二二二	一,四一六,三三八
新 義 州	一五,三五八,〇四七	三,六五四,六八四	一九,〇三三,七三三	二,三五四,一四九
龍 岩 浦	二四九,〇〇九	二,八七九,五三八	三,二二六,五七七	一,一四六,三三〇
鎮 南 浦	九二,一五五	四九,八一五,九三三	五〇,七六八,四八四	七,七三三,一八九
平 壤	四,九三二,四七七	一六,四四四	四,九三二,四七七	五,三七五,七五五
其 他	一,九八一,八八二	一六,三三九,五二八	一八,三三三,四〇〇	四,二五二,二六一
計	三三,三三九,〇三三	三〇,六八二,〇三三	三〇,六八二,〇三三	三三,三三九,〇三三

〔二〕輸移入貨物貿易

本年の輸移入貨物貿易額は、既記の通前年に比し輸入一割二分弱を減少せしも、移入五分強の増加により、

結局合計四分強の増進を告げ、輸入と移入との比は七と九十三とに相當して居る。而して之を種別に調査するに、衣類及同附屬品の一千六百萬圓を首位として、糸纒繩索及同材料の一千五百萬圓、臺二位を占め、之に次では布帛及布帛製品、時計學術器、機械類等の各一千三百餘萬圓、飲食物及煙草の一千二百餘萬圓等であるが、稍や下つて穀物穀粉類、紙、紙製品類の各六百餘萬圓、油脂蠟類、金屬製品の各五百餘萬圓等の順序である。左に既往五年の實蹟を對照表示する。

輸入貨物貿易額類別五年對照表 (圓)

類別	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年
植物及動物	六五九、八二二	五九四、八三九	七四八、四九九	六八〇、〇三三	四九九、八〇〇
穀物、穀粉、澱粉類及種子	六、五四七、三三九	六、九三〇、〇五〇	一〇、六七〇、〇四三	一〇、四九七、八七六	九、四九八、三二八
飲食物及煙草	二、七三五、七一九	二、五三七、六六八	三、五五三、二一〇	二、三六六、四六〇	二、〇二一、六三〇
砂糖及菓子類	一、二九九、九三三	一、二三二、七六七	一、三三〇、九三一	一、三三三、九三三	一、〇七三、三三三
酒精及酒類	七、六七七、三三三	七、六八五、四二四	七、〇三二、七九九	六、八八二、九八四	六、二二五、〇二六
其他ノ飲食物	三〇五、一三三	一、一〇六、四〇一	一、一〇八、四六一	二、八五九、八八〇	七、五二一、八三三
煙草	一三、四八八、〇〇〇	一三、五六一、二五〇	一三、八六八、七七一	一三、三三三、三三七	一〇、〇〇〇、〇〇〇
計					

皮毛骨角牙殼類及同製品	一、一〇九、四四六	一、一四三、一五三	一、二四七、九八一	一、四一七、九〇〇	一、三三八、七九九
油脂蠟及同製品	五、九〇〇、九七四	五、〇四〇、〇一〇	五、五〇八、三三八	五、二六〇、二六五	五、一五五、三六六
藥材化學藥製藥及爆發藥	四、三四三、七八四	三、九四三、七三三	五、六七八、四八三	五、八三二、一三三	四、五五一、五〇〇
染料、顏料、塗料及填充料	一、一四一、六四六	一、一〇四、八二六	九四九、六三四	一、〇〇六、一七一	九三三、一七六
絲纒繩索及同材料	一五、七二〇、七三三	一四、三三三、六六六	二二、五三三、八三六	一三、一四六、八〇一	二、八六六、一八〇
布帛及布帛製品	六、三六六、七三八	七、七二二、二二七	六、三九九、七〇四	七、三四八、六二四	九、〇三三、〇六六
綿織物	六、七四、二〇八	六、五二、三三三	五、四八、八五八	五、八九、八二六	四、一九、八〇三
麻織物	一、〇五七、二一〇	一、一〇三、六一七	八八〇、六三三	九三三、六三三	八五九、八二五
毛織物	二、〇八一、四七三	一、七六五、一九四	一、六六五、五八四	一、二九八、一三七	一、二二九、五〇六
絹織物	三、五八二、七九二	三、三二九、九四〇	二、五三六、七一九	二、五九五、三四三	二、三九八、三三七
其他ノ布帛及布帛製品	一三、七六一、四七七	一四、四八、四八一	一、六八一、五〇〇	三、七四三、五八六	三、九二〇、四八六
計	二六、七〇六、二〇六	二六、四〇〇、六四〇	二二、七四四、六九三	二二、五五五、八二四	一〇、二六二、三七六
衣類及同附屬品	六、三〇〇、〇八〇	五、九六五、〇四一	五、四〇九、九一四	五、〇九八、八六八	四、七〇六、二二六
紙、紙製品書籍及繪畫	四、九〇五、五八二	五、一五七、一七九	四、八七七、三五二	四、四三三、四五四	四、二二七、五七九
礦物陶磁器硝子及同製品	一〇	—	—	—	—
鐵	二、六六六、〇六三	三、一五四、五四〇	一、七九四、三三〇	一、五二六、三六二	一、四三九、九一八
其他ノ金屬	七三三、三七三	七三九、四四一	六二六、六七五	六二六、九二五	六二七、八三三

品名	昭和四年		昭和三年		昭和四年		昭和三年	
	計	類	計	類	計	類	計	類
金	三,三九六,四四六	三,九四四,四八一	二,四三三,〇五五	二,三三三,〇五五	二,三三三,〇五五	二,三三三,〇五五	二,三三三,〇五五	二,三三三,〇五五
計	五,五九一,八八九	五,七四一,二三三	四,九九二,二五九	五,三三三,四三三	五,三三三,四三三	五,三三三,四三三	四,八六六,三三三	四,八六六,三三三
時計、學術器、銃砲、船	二,九六六,六六五	二,三三六,五五四	二,〇三〇,八四七	二,二八,三六六	二,二八,三六六	二,二八,三六六	一,六六七,九一九	一,六六七,九一九
車、輛、及、船、舶	五,〇〇〇,一八七	四,一七四,九八〇	三,一五二,五〇九	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	二,四一五,二七五	二,四一五,二七五
機、械、類	五,〇〇〇,五〇〇	五,五五四,一六三	四,六九二,二二三	五,六三三,七四四	五,六三三,七四四	五,六三三,七四四	三,三三三,九一一	三,三三三,九一一
雜、品	一五,九四四,六六五	一三,一〇五,四六七	一,一四八,二九七	一〇,九六六,九三三	一〇,九六六,九三三	一〇,九六六,九三三	九,六六六,五三三	九,六六六,五三三
小包、郵便、物	二,七六六,八七一	二,五五五,〇七七	一,九六四,二八〇	二,五五六,八三三	二,五五六,八三三	二,五五六,八三三	二,三三三,一〇一	二,三三三,一〇一
旅客、携、帶、品	六六,九六六	六〇,一〇五	七九,七九三	七五,〇〇四	七五,〇〇四	七五,〇〇四	六九,一七五	六九,一七五
通、計	一〇〇,三三三,八三三	一三三,〇三三,七三三	一一五,三三三,八三三	一三三,〇三三,七三三	一三三,〇三三,七三三	一三三,〇三三,七三三	一〇〇,三三三,八三三	一〇〇,三三三,八三三
再、輸、入	一〇,五一一	九,七九三	一五,五九八	一六,五五五	一六,五五五	一六,五五五	九,九六六	九,九六六
全、計	一一〇,三三三,三三三	一四二,八二六,五二六	一三〇,九三二,四三二	一四九,五八八,四八八	一四九,五八八,四八八	一四九,五八八,四八八	一一〇,三三三,三三三	一一〇,三三三,三三三

備考 統計項目の改正に依り分類上幾分の相違あるは輸移出同様である。

而して輸移入貿易の大勢に就ては既述の通であるが、今、輸移入主要品に關し其の貿易額を前年と比較對照するに、價額に於て第一位を占むる綿織物は六百三十六萬餘圓で一百三十五萬餘圓を減少し、之に亞ぐ綿織糸は五百四十七萬餘圓で四十三萬餘圓、又機械類は五百九萬餘圓で綿織糸同様四十三萬餘圓を減退せしも、

礦油は四百六十九萬餘圓で九十萬餘圓、纜綿は四百五十三萬餘圓で九十二萬餘圓、肥料は四百十八萬餘圓で八十六萬餘圓、米は三百二十八萬餘圓で三十九萬餘圓の孰れも増加を告げ、其外洋服は二百九十餘萬圓で一百四萬餘圓、自動車は二百八十一萬餘圓で八十八萬餘圓の共に顯著なる増進を示したが、之に反して鐵類は二百六十六萬餘圓で五十八萬餘圓の減退を示せる外、護謨靴、木材各二百三十餘萬圓で前者は七十二萬餘圓後者は三十九萬餘圓の減退である、而して纜綿、綿織物等に見る如く輸移入共増減一致せるもの外、米、揮發油、肥料等の如く輸入の減少に拘らず移入の好況に依り増加したるものもあり、木材等の如く輸入の増加に拘らず移入の減少に依り減退したるものもある。詳細を表示すれば左の如くである。

輸移入貨物數量價額種別二年比較表

品名	單位	數量		價額	
		昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
植、物	百斤	三,〇〇,一〇一	三,七五,四五四	三,二九,三三三	三,五三,二六八
米、及、糠	百斤	六,一三六	一,一五,九五四	四七三,九三三	二,八九七,一八〇
大、麥、及、裸、麥	同	七〇,三三六	一,五七,〇一〇	四三二,九六六	七三三,三九四
粟、類	同	三,五一一	三,一〇一,〇〇〇	二六二,九六三	八三三,六三四
豆、類	同	四,四七三,七三三	一,三,八七三,〇五五	一,四九七,六六三	一,五二四,八〇一
小、麥、粉	斤	一,四,四七三,七三三	一,三,八七三,〇五五	一,四九七,六六三	一,五二四,八〇一

砂	精	菓子	清酒	麥酒	生菓	乾菓	生菓	生菓	生菓	茶	茶	鹽	鯉節及鯖節	其他ノ乾魚	昆布	鹽	清涼飲料	葉煙草	革類
斤	升	升	利	利	斤	斤	斤	斤	斤	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
五、五四一、〇五七	二、五〇六、〇五四	一八九、三六四	一、五五〇、九〇二	一八、〇八七、四三九	二、七二一、五九九	一四、〇〇七、〇四五	三、二七六、九二一	一七、二八三、九五六	六五四、〇三二	三七〇、〇五五	二、〇六一、七五五	八三、〇五二	三、二〇四、三二一	一、〇九二、七八八	六七一、五九七	三〇〇、一五〇	一、五八〇、六四六	二九〇、二二三	
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
五、八六七、八七二	二、〇三二、七六六	二二四、八五〇	一、三六六、七九三	一三、九七〇、七七〇	一、九八一、六八四	二二、六二九、〇五五	四、二四五、六六五	一六、八七四、八七〇	五九八、二九九	三三〇、四八二	二、八九五、八〇三	一九、三三八	二、九七六、八八一	一、二七九、三四	九〇、六三三、〇〇六	二七三、五九八	三、五九三、五七七	三二〇、八五九	
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
三六、八二四	三三三、二六八	二五、四八六	一八四、一〇九	四、三六六、八六九	七三〇、〇二五	一、三七七、八四〇	九六八、七五四	四〇九、〇八六	五五、七三三	二六、五七三	八四四、〇二七	三七、二六六	二六、四五四	一八六、五三六	八九、九五二、〇〇九	五六、五三三	二、〇二四、九三二	二〇、六四六	
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
八〇〇、八九三	九二二、七八	二〇九、七五四	六三九、七五七	九〇三、三五一	三三〇、八三七	一、三二〇、八六九	三三三、七三三	一、六五六、五九二	三八四、〇〇四	二〇〇、五五五	二〇四、一七八	八五、三六八	六六、三三〇	二二四、二六五	四〇二、七〇五	一〇五、五〇〇	五、四四、七七	四、五九、四八	
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
八六二、七〇六	九三三、九三四	二二二、八六〇	六三七、四三三	八八六、六八三	二五二、四二二	一、二二七、一八〇	五三三、二六六	一、七五一、四六六	三七二、六〇七	二〇九、五九九	三〇〇、四九九	一〇五、三三三	四〇〇、八五五	一、五七、七八	七六、四四六	九七、五三三	九八、九九六	五三九、九九	
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
六、八二二	一、二二六	三三、〇八六	一、八一五	二六、六六八	一、八一五	八三、六八九	一七、五六三	九四、八七四	一一、三九七	八、九六四	一九、三二五	一九、九四五	二六七、四五五	三、五三三	三三〇、七四一	一三、九九九	四〇四、一九九	六九、九六一	

革製	菓子	原油及重油	揮發油	燈油	輕油	機械油	其他	計	石鹼	香水及香油	曹達灰及炭酸曹達	賣藥	其他ノ藥材化學藥	製藥及同調合品	安全燐寸(小箱)	染料	イソ	綿	
斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤	
三九五、三二一	四、一六九、八〇九	一、三三三、二九九	三、八〇三、九〇〇	一、四四九、六四八	四、八四四、〇〇一	二、三二一、二四	五、四一、二九七	九三三、六二九	一、八六六、〇六九	一、五八三、五三三	五七〇、四六七	八八三、七二四	二、九一、七〇	四八三、〇七四	二二五、三三三	一、二二、七三六	八七三、二六六	四八五、一九〇	
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
四八、八三八	三、〇四八、〇八八	一、三三三、〇七五	二、二五一、〇〇三	一、三三八、四二〇	四、一七三、五三三	三、七四、一五三	五七〇、四六七	八八三、七二四	一、五八三、五三三	三〇二、五〇六	二九、一七〇	四八三、〇七四	二二五、三三三	一、二二、七三六	八七三、二六六	四八五、一九〇	二〇一、五〇九	一五七、七七二	
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
五、五、六〇七	一、二二、七三二	九八、一九四	一、五三三、九一八	二二、三二六	六六〇、四八八	一、四二二、〇二九	二九、一七〇	四八三、〇七四	三〇二、五〇六	二九、一七〇	四八三、〇七四	二二五、三三三	一、二二、七三六	八七三、二六六	四八五、一九〇	二〇一、五〇九	一五七、七七二	四八五、一九〇	
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
四三三、四〇〇	一〇七、四三二	七九、〇五五	六六七、九二〇	六〇二、二五六	五二二、六九一	一四、九五五	九九、五〇三	四八三、〇七四	二二五、三三三	一、二二、七三六	八七三、二六六	二、六九五、三三八	四八五、一九〇	二〇一、五〇九	一五七、七七二	四八五、一九〇	一五七、七七二	四八五、一九〇	
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
四九一、三二二	二九、六六八	六六七、三三四	八六六、二一六	一、二二、八九九	五六一、二一六	二六、四七三	三、七九九、四六八	一〇七、八九〇	五二七、〇八五	一七四、九六四	九七、六五四	七三七、〇五二	二、四二二、〇八八	六二九、六六〇	一七四、七〇五	一三三、一八五	三、六〇六、三四五	九八、四二九	
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
五、八二二	三、三六八	八一、七二二	二、二七二	七三、八〇三	四、一三〇	一一、五二七	九四、〇七二	八、三八七	三、四〇、〇一一	四〇、三六九	二四、〇八二	一三五、一一五	二六三、二四〇	一三三、一八五	二六、八〇四	三、六〇六、三四五	九八、四二九	九八、四二九	





第一總説

流網及流網地	六〇、三九	六六、三二	一四、九八	九五、五九	八二、八六	一八〇、六九
ホース及機械用ベ ルチング	二七、三三	二七、二七	八四	一七、六三	一九三、八〇	一六、四八
和服				六六三、七八	四九三、三五	一七〇、四九
洋服				二、九三、六五〇	一、八九、四八	一、〇三、六六
肌衣				二、四九、一〇七	二、四六、五六	一、三、五二
靴足				三、六六、八三三	三、七二、四七	一、五、六三
日本足袋				一、〇七、〇九〇	四三、三七六	八二、七四
朝子				一、〇七、〇七六	一、〇〇、〇〇	六四、七三
長靴				二、三三、一三三	三、〇七、四六	七、三、〇〇
短靴				三、六六、八三三	四四、一三三	三、三三、七〇
計				六、〇七、九六	三、四八、九九	二、五八、五七
下駄				一、七、五〇〇	一、三、四〇八	四七、〇九
洋紙				一、〇三、一九五	九七、一六七	一七、〇六
和紙				六四六、二六四	七四三、五三〇	一七、〇六
其他紙				三、三、一三	四七四、六五	一一、三三
帳簿及手帳				三、八、〇〇	三、五、九六	七、九四
書籍及雜誌				二、三〇、八四九	一、九四、〇九	二、八六、七二
石炭				一、八六、九二	一、八四、一六〇	二、五、四六
セメント				五、四六、八三	七、六二、三三	二、五、八二

第一總説

陶磁器及其他ノ粘 土製品	一、八二、〇六	一、六五、九〇〇	三三、三六	一、三三、四五	一、三九、三六〇	一、三三、三六〇
窓(無色平面ノモノ)						
條及竿						
板						
電板						
葉鐵及葉						
電線						
筒及管						
其他						
計						
銅						
鉛						
錫						
眞鍮及青銅						
洋鐵釘						
其他釘						
計						
鐵道建設用材料						





平均	庚六、七、七	八七〇、四三△	一〇〇、七三五	一〇〇、六八七	九、五五〇、三五	五、四八、五三三	一〇、八六五、六二四	一〇、四三〇、七九七	四、四八、八一七
----	--------	---------	---------	---------	----------	----------	------------	------------	----------

全鮮港別輸移入貿易額二年對照表 (圓)

港別	昭和四年			昭和三年		
	輸	移	計	輸	移	計
釜山	九、二〇〇、八四三	一一三、一八六、五三〇	二三〇、三八七、三六二	一〇、四四五、五三六	一一四、六〇四、〇一八	二二五、〇四九、五五四
木浦	二、一五〇、七五五	一一二、〇七五、五〇八	一四四、二二六、二六三	二、三二一、五五七	八、七三四、五七七	一一、〇五六、〇〇四
大邱	八〇〇、九九七	三、〇五六、四四五	三、八五七、四四二	七八六、八四八	三、七九二、六七二	四、五六九、五二九
馬山及鎭海	二、四三二、五七七	四、六六九、六三三	五、二二二、二二二	五、二四七	四、四六八、六九六	四、五二二、四三三
仁川	一七、九〇〇、四七四	六五、三七九、九六一	八三、二九〇、四五五	一九、五三〇、二四四	六四、八一六、八三九	八四、三三七、〇八三
京城	四、七四四、三三〇	一六、四四四、一四四	二一、一八八、四七四	四、九五四、〇〇五	一六、四〇一、三三〇	二一、三五四、三三五
群山	二、九四二、二二二	一五、一五五、〇三三	一八、〇九七、二五五	三、一六七、六六一	一四、八九七、三〇七	一八、〇六四、九一四
元山	六、七〇九、七三三	一四、〇〇九、三三三	二〇、七一九、〇六六	八、四七一、四八六	一七、七〇六、八〇〇	二六、一七九、二八六
清津	一、六三三、〇六六	二、五五七、九六六	三、二九一、〇三二	二、六、四七七	二、七七七、七四四	三、九四四、三三二
雄基	三、九四、四八八	三、五〇〇、四六六	三、九四四、九五四	一、一八五、六七五	三、〇二九、〇五八	三、〇二九、〇五八
新義州	三九、八〇七、八九二	五、一一〇、八四六	四四、九一八、七三七	四四、九九〇、二六六	二、一三三、〇五六	四七、〇三三、三三三
龍岩浦	二、九一九、六六七	六〇、四一七	二、九八〇、〇八四	一、二五五、五六六	一一三、四一一	一、三七八、九七七

鎮南浦	昭和四年			昭和三年		
	輸	移	計	輸	移	計
鎮南浦	五、〇五四、一一三	一一五、四三二、八二二	一二〇、八七七、〇〇四	五、一九〇、七四四	一二三、六五七、一九四	一三、八四七、二六八
平壤	七、二五七、四五六	八、一一九、四〇〇	一五、三六六、八五六	八、九一一、九五六	六、二九八、〇二〇	一五、〇一〇、九七六
其他	七、一一一、二二〇	一五、五七七、八五五	二二、六八九、〇七五	六、六五〇、七三六	九、四六〇、一三九	一六、一一〇、八七六
計	一九、四二二、八〇九	一四〇、〇七二、〇六八	一六〇、五九四、八七七	一九、七五二、四四六	一三九、四一五、一五三	四七、三九〇、〇七三

第二、外國貿易 (貨物)

〔一〕概説

本年の對外國貿易額は、既記の通輸出一百七十四萬餘圓、輸入九百二十萬餘圓、合計一千九十四萬餘圓にして前年に比し輸出四十九萬餘圓の増加、輸入一百二十四萬餘圓の減退、合計七十四萬餘圓の減少で、之を對國別に觀察すれば、輸出は支那、英領海峽殖民地、米國、暹羅、蘭領印度等を主なるものとし、輸入は支那米國、英領印度、佛領印度、露領亞細亞、英國等を主なるものとし、前年に比すれば輸出にありては支那英領海峽殖民地、米國、蘭領印度、暹羅等概して増加を示したが、英國、英領印度等僅に減退し、又輸入にありては米國、露領亞細亞等一兩國の増加を見たるに反し、支那、英領印度、蘭領印度、暹羅、英國、獨逸等一般に減退を告げたが、保稅工場よりの輸入は著しく増加した。

貿易額國別二年比較表 (圓)

國別	輸出		輸入		合計	
	昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
支那	八四九,九〇五	六三三,四〇七	二,五〇五,三三七	三,〇二五,九三三	三,三五五,二四二	三,六三九,六七〇
香港	二四,四一九	一四,三三六	二八二	一,三九九	二四,七〇〇	一五,五〇五
英領印度	六,九八〇	一八,八九四	一,二四七,三三九	一,九九一,四七四	一,三五四,三〇九	二,〇〇〇,三六八
英領海峽殖民地	二九九,三〇六	一五二,一三三	一,〇〇五,二一七	五〇〇,五二二	二九九,三五五	二〇〇,二七四
英領印度	一〇一,一五二	三〇,六六一	四,二二九	一四八,四四二	一四二,一八〇	一七九,二二二
佛領印度	二九,二九七	三三,〇〇九	一,一九九,七七七	一,七八三,七七七	一,三三九,〇〇四	一,八五五,七六六
露領亞細亞	二二七	—	八五二,一六四	六四一,八七八	八五二,一九一	六四一,八七八
暹羅	一六,二二五	五〇,四六一	四八,九九六	三八六,一一二	一七五,一〇二	四六五,五七三
比律賓	二,二七七	三,七〇四	五五,八六五	一〇九,四五五	六五,六〇二	一三三,一九九
英吉利	二,〇九三	二〇,八二六	三九九,六九五	五五二,〇四二	三九一,七八八	六七二,八四八
佛蘭西	八三三	三三三	六三三	二,六〇二	一,四九六	二,九四四
獨逸	七三三	五五六	六四,六六	二九,五六八	六五,三九二	二九〇,二四四
白耳義	二二六	五	—	三,二四〇	三,二四〇	三,二四五
瑞典	三三六	三	五〇,九六	五,五八	四,六〇二	五,五〇六
北米合衆國	二七九,二三	一七四,三五五	二,〇〇,六六二	一,二五二,八九〇	八二七,八二二	二,三五九,七九五

國別	輸出		輸入		合計	
	昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
加拿大	二,四四五	三,六七七	一,二二二	七九,〇六九	一,〇九九	八一,五三四
澳大利亞	四,五五六	八九三	三,六六三	九,七三三	四,八九三	一四,二七八
西班牙	五	—	五	三三	八,六三〇	三二九
巴西	四,五四五	三,五〇一	一,〇二二	六	四,五五一	四,五五一
其他諸國	六八三	一,〇八八	三五五	一〇八	八七	七九二
保稅工場	—	—	—	—	—	—
計	一,七四,五七五	一,二四,七六	四,五,八四九	九,〇〇,八三三	一〇,四四,五五六	一〇,九四,四七二

輸出入貿易額主要國別五年對照表 (圓)

國別	昭和四年		昭和三年		昭和二年		昭和元年		大正十四年	
	輸出	比例	輸出	比例	輸出	比例	輸出	比例	輸出	比例
支那	八四九,九〇五	三〇七	六三三,四〇七	三二	三,〇二五,九三三	四三三	三,三五五,二四二	二,七六六	二,七六一,八六二	三三三
英領印度	一,二三四,〇〇八	一五	二,〇一〇,三六八	一七	一,〇三六,四六三	一〇五	一,〇六六,六五五	一一〇	六五,九四一	九
英領海峽殖民地	二九九,三〇六	三七	二〇〇,二七四	一八	二,四八,八九	二六	三九三,六六六	三三	二二,二五六	二七
英領印度	一四二,一五二	一三	一七,二二二	一六	一,四七,一五〇	一五	二,六九,三三〇	一七	一,四四,五六五	一八
佛領印度	一,三三九,〇〇〇	一〇四	一,八五,七六六	一五	三六八,六〇八	三七	二,四六,四四五	一九	三五五,二七四	四六
露領亞細亞	八三,一九一	九	四一,八七八	五	二,六一,六〇二	二	三三,一一五	一九	一四〇,〇六一	一八
暹羅	一七五,一〇二	六	四一,五七二	五	一六,八六八	二	一三五,四〇八	一九	四,九四〇	一三
比律賓	三九,七六八	五	四一,五七二	五	一六,八六八	二	一三五,四〇八	一九	四,九四〇	一三
英吉利	三九,七六八	五	四一,五七二	五	一六,八六八	二	一三五,四〇八	一九	四,九四〇	一三

獨逸	北米合衆國	其他ノ諸國	保稅工場	合計
六五,三九一	二,三五九,七九五	二四,五二一	六六,二四三	一,〇〇,〇〇〇
六	三六	三三	六二	一〇〇
二五〇,二四	一,四三三,九五	二三三,四七一	一四七,三三三	一〇〇,〇〇〇
二五	二三三	二〇	三	一〇〇
一四,四五五	一,四六二,七九九	一七七,四三〇	一	一〇〇,〇〇〇
一	一四九	一七	一	一〇〇
一一,七〇三	九〇,〇〇〇	四〇,九九七	一	一〇〇,〇〇〇
一	七	三	一	一〇〇
八,九九九	一,七五五,四七〇	一六五,五〇八	一	一〇〇,〇〇〇
一	二二	三	一	一〇〇

〔二〕輸出貨物貿易

本港輸出貿易の對象國としては、殆ど支那一國に限らるゝと稱しても過言では無く、隣接せる露領亞細亞との通商は未だ全く進展せざるが爲、僅に上海、青島方面よりの仲繼貨物が本港に於て積替へられ、又北滿産の物資が浦鹽經由輸入せられた事もあるが、之も本年は殆ど見ることが出来ないと云ふ状態で、支那を除いては單に米國へ僅少の輸出を見る外、他の諸外國との貿易は殆ど全部小包郵便に依るものゝみである、尤も海産物の如く内地迄一應移出せられて後、支那、南洋、米國等に仕向けるものは相當多い模様であるが、之は本港の貿易額には計上せられないから、勢ひ本港輸出貿易額は數字的に實際額以下であり、其の盛衰は一に對支那貿易の狀況に因つて支配せらるゝ譯である。而して之が國別の貿易額を觀るに、支那の八十四萬餘圓を筆頭に、海峽殖民地の二十九萬餘圓、米國の二十七萬餘圓之に亞ぎ、暹羅十二萬餘圓、蘭領印度十萬餘圓等の順位で、前年に比すれば支那二十二萬餘圓、海峽殖民地十四萬餘圓、米國十萬餘圓、暹羅、蘭領印

度各七萬餘圓等を増加し、英國十一萬餘圓、比律賓、英領印度各一萬餘圓を減退した。

輸出貨物貿易額國別二年比較表 (圓)

國別	昭和四年	昭和三年	増減(△)	國別	昭和四年	昭和三年	増減(△)
支那	八四九,九五	六三三,〇七	二一七,四九八	英吉利	二〇,九三	二〇,八六	△
香港	二四,四九	一四,一六	一〇,一八三	獨逸	七三	五五	一七
英領印度	六,九〇	一八,八九	△	北米合衆國	二七九,二三	一七四,三五	一〇四,七八
英領海峽殖民地	二九,〇六	一五,二三	一四八,三三	加拿大	二,四四五	三,六六七	△
蘭領印度	一〇一,五二	三〇,六一	七〇,四七〇	漆太刺利	四,五五六	八九三	三,六六三
佛領印度	三九,一九	三〇,〇九	△	布哇	四,四五	三,一〇一	一,三五四
比律賓諸島	一一,七七	三,七〇	△	其他諸國	一,九八二	一,四三三	五五九
暹羅	二六,三三	五〇,四六一	△	計	一,七〇五,五七	一,二四八,七六	四五六,八〇九

右の如く、本港輸出貿易の對象國として殆ど唯一の位置にある支那に對しては其の經路に左の三線あり、

- 一、海路直接
- 二、内地經由
- 三、陸接國境經由

之は輸入も同様であるが、額の最も多いのは海路直接のものであり、次では陸接國境を經由するもので、内地を經由するものは上海航路の開始以來漸減の状態にある、尤も之は内地迄移出して其後輸出せらるゝものを含まずしての實狀であるが、現在支那に對しては上海航路、九州大連航路、北海道大連航路、臺灣朝鮮大





品名	單位	前年	本年	增減
鱈	斤	一五,六六三	一三,四〇五	△
海參	斤	二四,六三二	一九,三二六	△
其他水產物	斤	一三,五〇三	一〇,〇三三	△
計	斤	五,七四〇	八,二四四	△
清酒	升	六六,一四三	三三,六三三	△
果實	斤	六,五〇七	三,一八四	△
核子	斤	一〇二,六四九	二五,七九七	△
鮑	打	三,三三三	九,二五六	△
蟹	打	三,三三三	三,三三三	△
鱈	打	三,三三三	三,三三三	△
及	打	三,三三三	三,三三三	△
食物	打	三,三三三	三,三三三	△
計	打	三,三三三	三,三三三	△
葉煙草	斤	三,三三三	三,三三三	△
牛皮	斤	三,三三三	三,三三三	△
油脂及蠟	斤	三,三三三	三,三三三	△
絲纜繩索及同材料	斤	三,三三三	三,三三三	△
履物	斤	三,三三三	三,三三三	△

●輸出重要品

煮乾鱈

數量 三十八萬餘斤 前年に比し増加 八萬餘斤  
 價額 十三萬餘圓 同 二萬餘圓

品名	單位	前年	本年	增減
土狀黑鉛	百斤	三〇,八七	一九,三三	△
其他礦物及同製品	斤	一,六〇	一,六〇	△
陶磁器	斤	四,〇〇	四,〇〇	△
鐵	斤	一,〇〇	一,〇〇	△
時計、學術器、銃砲、船車及諸機械	斤	一,〇〇	一,〇〇	△
木	斤	一,〇〇	一,〇〇	△
藥	斤	一,〇〇	一,〇〇	△
海	斤	一,〇〇	一,〇〇	△
其他雜品	斤	一,〇〇	一,〇〇	△
小包郵便物	斤	一,〇〇	一,〇〇	△
再輸出品	斤	一,〇〇	一,〇〇	△
全計	斤	一,〇〇	一,〇〇	△

春より初夏にかけては徒らに早天續き沿岸漁場一帯に前年と同様漁獲振はなかつたが、七月末より俄かに鰻群の襲來を見、特に巨濟島方面より統營近海にかけて一時は煮乾鰻の山を築くの盛況を呈し、初冬に入り氣温の關係を受ける迄引續き相當の漁獲あり廻着も繁盛を告げた。而して右の輸出高は輸移出總量の四分強に過ぎざる状態にあるから、相場は勿論漁況と内地の氣配とに依り左右せらるゝのであるが、本年は右の通下半期非常の豊漁を示したるに拘らず好晴續きて製品の質も良く、不景氣の折柄とて鰻節代用等の需要増加に因る阪神、中國方面の買氣旺盛の爲市況は大体強調を呈した、又趨向方面より觀れば主として中、小羽は中國、返りは九州、チリメンは京阪地方に仕向けられ、支那向は殆ど中、小羽に限られて居るが、輸出高の約四割は上海に、其他は大連、奉天等滿洲方面に仕向けたもので、前年に比し滿洲は相當増進し、上海も數量に於て稍増加して居る、本品は對支輸出海産物として其の需要と生産とより觀て、將來最も有望なるものと思はれるから此の方面に對する一段の努力を希望するものである。

因に當地重要海産物同屋組合本年中の取扱高は一百九十七萬餘圓で、前年に比し二十二萬餘圓を増加し、又當地と共に本品の主要取引地たる統營の同業組合に於ける本年の賣買高は六百七十三萬餘斤一百九十四萬餘圓を算し、更に同地の移出高は三百八十一萬餘斤一百三十七萬餘圓で前年に比し七十九萬餘斤二十萬餘圓の増加を示した。

輸出煮乾鰻數量價額國別二年比較表

國別	數量 (斤)		價額 (圓)	
	昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
支那	27,635	26,068	37,235	26,353
支那				

移出煮乾鰻仕向地別數量價額二年比較表

仕向地	數量 (斤)		價額 (圓)	
	昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
大阪	1,219,053	1,120,010	729,111	433,167
神戸	264,524	155,197	104,001	56,506
名古屋	103,700	99,095	36,225	33,334
東京	11,580	13,333	4,416	4,799
東	18,669	30,755	7,038	9,777
敦	73,673	78,123	27,580	39,444
下	44,996	33,752	16,004	10,705
門	76,910	70,671	26,133	23,448
博	76,410	86,562	26,657	26,155
長	32,326	32,104	11,868	10,101
壱				

其計	他	計
四、八七、九四	四、八、七五	六、四六、一七
八、三三、七五	六、六三、三三	一、七〇、四二
		二、九二、八〇
		二、一八、二四
		三、七三、〇五
		八、二二、〇〇

輸移出煮乾鯉數量月別五年對照表 (斤)

月次	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年
一月	五、四、八四	一、七、二九	四、三、二四	六、三、七九	四、二、六三
二月	三、三、一〇	一、二、六〇	一、九、七六	一、五、六四	九、〇、二九
三月	六、三、八七	六、三、三〇	二、六、六三	五、五、九七	一一、九、三三
四月	九、八、〇七	二、六、五四	六、三、六六	五、三、五三	一〇、一、〇七
五月	一〇、八、三三	一、八、〇、一五	一〇、八、六九	七、七、四六	四、九、六九
六月	一、一、三、七九	二、七、七九	一、〇、三、三三	三、〇、八、三六	四、四、八三
七月	一、〇、九、七六	一、一、九、〇五	五、七、九四	五、八、六、七	一、七、〇、九八
八月	三、二、四、六三	一、二、九、四九	一、三、三、二五	八、五、一、〇三	一、三、七、七〇
九月	一、九、〇、四〇	四、〇、七	一、四、七、九	六、四、九、〇	三、三、三三
十月	一、八、一、三六	一、三、四、八七	一、七、七、〇	九、九、九、八	四、〇、二、二〇
十一月	六、五、二、一八	九、七、六、六九	七、七、〇、〇三	八、〇、二、一九	一、〇、三、〇六
十二月計	二、一、三、二九	四、三、一、八六	五、三、三、一〇	六、三、三、〇七	四、八、三、〇〇
合計	七、三、八、七五	六、七、〇、七	五、八、七、〇	六、四、九、六	四、二、〇、〇
平均計	七、二、七、一	六、六、三、二	五、七、二、七	四、七、八、六	四、一、三、七

備考 本表には觀察の便宜上移出を計上してある。

煮乾鯉平均相場月別二年比較表

月次	昭和四年	昭和三年	騰落(△)
一月	一九、〇〇	一七、〇〇	二、〇〇
二月	一七、〇〇	一七、〇〇	—
三月	一七、〇〇	一七、〇〇	—
四月	一〇、〇〇	一七、〇〇	—
五月	一八、〇〇	一七、〇〇	一、〇〇
六月	一三、〇〇	一七、〇〇	—
七月	一三、〇〇	一七、〇〇	—
八月	一〇、〇〇	一七、〇〇	—
九月	一三、〇〇	一七、〇〇	—
十月	一三、〇〇	一七、〇〇	—
十一月	一三、〇〇	一七、〇〇	—
十二月計	一三、〇〇	一七、〇〇	—
合計	一三、〇〇	一七、〇〇	—
平均計	一三、〇〇	一七、〇〇	—

月次	昭和四年	昭和三年	騰落(△)	昭和四年	昭和三年	騰落(△)	昭和四年	昭和三年	騰落(△)
一月	一九、〇〇	一七、〇〇	二、〇〇	一三、〇〇	一三、〇〇	—	一三、〇〇	一三、〇〇	—
二月	一七、〇〇	一七、〇〇	—	一三、〇〇	一三、〇〇	—	一三、〇〇	一三、〇〇	—
三月	一七、〇〇	一七、〇〇	—	一三、〇〇	一三、〇〇	—	一三、〇〇	一三、〇〇	—
四月	一〇、〇〇	一七、〇〇	—	一三、〇〇	一三、〇〇	—	一三、〇〇	一三、〇〇	—
五月	一八、〇〇	一七、〇〇	一、〇〇	一三、〇〇	一三、〇〇	—	一三、〇〇	一三、〇〇	—
六月	一三、〇〇	一七、〇〇	—	一三、〇〇	一三、〇〇	—	一三、〇〇	一三、〇〇	—
七月	一三、〇〇	一七、〇〇	—	一三、〇〇	一三、〇〇	—	一三、〇〇	一三、〇〇	—
八月	一〇、〇〇	一七、〇〇	—	一三、〇〇	一三、〇〇	—	一三、〇〇	一三、〇〇	—
九月	一三、〇〇	一七、〇〇	—	一三、〇〇	一三、〇〇	—	一三、〇〇	一三、〇〇	—
十月	一三、〇〇	一七、〇〇	—	一三、〇〇	一三、〇〇	—	一三、〇〇	一三、〇〇	—
十一月	一三、〇〇	一七、〇〇	—	一三、〇〇	一三、〇〇	—	一三、〇〇	一三、〇〇	—
十二月計	一三、〇〇	一七、〇〇	—	一三、〇〇	一三、〇〇	—	一三、〇〇	一三、〇〇	—
合計	一三、〇〇	一七、〇〇	—	一三、〇〇	一三、〇〇	—	一三、〇〇	一三、〇〇	—
平均計	一三、〇〇	一七、〇〇	—	一三、〇〇	一三、〇〇	—	一三、〇〇	一三、〇〇	—



仕向地	昭和四年		昭和三年		昭和四年		昭和三年	
	量(斤)	増減(△)	量(斤)	増減(△)	價	増減(△)	價	増減(△)
大阪	八二,〇九九	△	三九,八五三	△	七,二一四	△	三〇,〇八二	△
神戸	二七,三五一	△	五八,六五三	△	二,六六三	△	九,三〇〇	△
敦賀	一四八,七三三	△	一四八,七三三	△	一一,七三三	△	一一,七三三	△
下関	一,三五,七四四	△	一,八四二,八三六	△	一一五,五九七	△	一五九,一四八	△
門司	二,三九六	△	八七,〇四八	△	一九八	△	八,五三七	△
臺灣	一三三,七六五	△	五九三,八五〇	△	一一,七二〇	△	五三,五五三	△
其他	九〇〇,二六六	△	一,二七五,八三三	△	八〇,六九六	△	一一,四六八	△
計	二,三三九,四〇一	△	四,一〇〇,〇六一	△	三三,七二〇	△	三三,九〇二	△

輸出向鹽魚平均相場月別一覽表

品名	柄單位	月												平均	前平均
		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月		
鹽(浦項産)	百斤	七,三三	六,五〇	六,七〇	八,〇〇	七,〇〇	七,〇〇	八,〇〇	八,〇〇	八,八〇	八,六六	七,三三	七,三三	七,〇〇	
鹽(同)	同	八,八八	九,六六	九,九二	九,九二	七,〇〇	七,〇〇	八,〇〇	八,〇〇	八,八〇	八,六六	八,八八	八,八八	八,六六	
鹽(同)	同	四,八〇	四,八〇	四,八〇	四,八〇	四,八〇	四,八〇	四,八〇	四,八〇	四,八〇	四,八〇	四,八〇	四,八〇	四,八〇	

淡 菜

數量 七萬九千餘斤 前年に比し減少 二千餘斤  
 價額 五萬一千餘圓 同 増加 七千餘圓

輸出高は右の如く、前年に比し數量に於て僅少の減退を示したけれ共、内地經由品の移出高は十五萬一千餘斤八萬七千餘圓を算し、前年に比すれば二萬一千餘斤一萬四千餘圓の増加を告げたから、結局輸移出高は増進した譯である。懸案の日支交渉は三月末調印の運となり、救國會等の手に因る排日貨運動も漸次終熄を告げるに至つたので、久しく振はなかつた對支貿易も漸く氣配良好となり、而も本品の如きは銀安、爲替高の打撃もあつたに拘らず、統營、麗水方面の漁況順調なりしが上に、支那の買氣旺盛で相場は引締り勝ちであつたから、春、秋の出廻季には荷動き好況を示した。而して右の輸出高は殆ど全部上海に仕向けられたものであり、移出品の主要仕向地たる長崎、下関、神戸よりは更に天津、上海、香港方面へ輸出せらるゝものである。

輸出淡菜數量價額國別二年比較表

支那	國別	數量(斤)		價額(圓)	
		昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
支那	支那	七九,七六四	八二,三三四	五二,一五九	四三,五二四
		増	減(△)	増	減(△)
		二,四四〇	△	七,〇〇〇	七,〇〇〇

移出淡菜仕向地別數量價額二年比較表

仕向地	數量(斤)		價額(圓)	
	昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
神戶	八、三〇〇	八、三〇〇	四、二六三	四、一〇〇
下關	八、二〇〇	一、〇〇〇	二、四二八	六、七二二
門司	七、五〇〇	一、〇〇〇	五、二二二	一、七〇六
長崎	四、九〇〇	一、〇〇〇	三、八八三	三、三三三
計	三、一、九〇〇	一、〇、〇〇〇	一七、〇〇〇	一四、八六二
		増減(△)		増減(△)
		△	△	△

淡菜平均相場月別一覽表

品名	柄單位	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均	前年
淡菜	並百斤	六、〇〇	六、〇〇	六、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇

數量 十一萬三千餘斤 前年に比し増加 一萬七千餘斤  
 價額 八萬三千餘圓 同 減少 八千餘圓

乾鰯

當地に出廻る乾鰯には皮付のものと皮剥のものがあり、皮付のものは櫻鰯が大部分であつて多くは内地に需要せらるゝけれ共、剥鰯は殆ど全部が對支輸出品である、而して當地の出廻高は例年剥鰯が多量を占むるのであるが、本年は早天続きで孵化状態良好なりし爲、産地羅老島方面頗る豊漁を示したから、兩種共出廻増進し、特に櫻鰯は競争品たる静岡産の生産減少に因る朝鮮産の引合著増して相場も昂騰したから、産額を増加せしめて出廻は剝鰯を凌駕するの好況を示し、剝鰯も産額の増加で相場は下落したが、對支取引好轉の影響を受けて大体順調なる商況を辿つたものと様である。

右の出廻高は全部上海に仕向けられたもので、本年の移出高は皮付三十二萬一千餘斤七萬七千餘圓、其他十五萬二千餘斤十萬二千餘圓、合計四十七萬三千餘斤十七萬九千餘圓を算し、前年に比すれば十九萬餘斤七萬餘圓の増加を示したが、剝鰯は大部分長崎へ移出せられて後、再び上海、香港、廣東、臺灣方面へ積出され又櫻鰯は信越地方及九州各地へ仕向けられたものが多額を占めて居る。

輸出乾鰯數量價額國別二年比較表

種別	數量(斤)		價額(圓)	
	昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
皮付小鰯及鱈	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
		増減(△)		増減(△)
		△	△	△



輸出鱧鱈數量價額國別二年比較表

支那	數量(斤)		價額(圓)	
	昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
支那	一五、六八三	一三、四〇五	二、二七九	一、九六三
國別	增	減(△)	增	減(△)
			一四、八六六	四、七九七

移出鱧鱈仕向地別數量價額二年比較表

仕向地	數量(斤)		價額(圓)	
	昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
神戶	一七、九六〇	二五、六〇〇	七、六三〇	一八、四四四
下關	—	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
長崎	二、八八五	二、八五〇	二、九六五	二五、二九七
其他	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	六、一六六
計	三、二二五	六、八八〇	二五、五八五	六〇、三三三
			△	△
			二五、五八五	二五、五八五

鱧鱈平均相場月別一覽表

品名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均	前年
神戶														
下關														
長崎														
其他														
計														

海參

數量 一萬四千餘斤 前年に比し減少 四千餘斤  
 價額 一萬七千餘圓 同 一千餘圓

品名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均	前年
パカ鱧並														
ヤシ鱧同				110.00						110.00	115.00		100.00	九六.〇〇
ホズミ鱧同				100.00	100.00		100.00	100.00	100.00	100.00	100.00		100.00	九七.〇〇

當地に出廻る海參は主として統營、蔚山、浦項及江原道物であるが、上海方面に需要せらるるものは至つて少く、青島、天津及滿洲地方に仕向けらるるものが大部分である、之當地出廻品は乾燥不充分等の爲上海方面の嗜好に適しないからであるが、右の輸出高も約半數は青島へ、其他は殆ど全部大連、安東へ出荷したもので、上海仕向は僅々三百斤に過ぎない、而して天津、大連方面へ仕向けるもので内地を経由したものは主として關門及長崎へ移出せられたが、本年の總移出高は五萬五千餘斤六萬八千餘圓で、前年に比し五萬七千餘斤五萬二千餘圓の著減を示した、春の如きは滿洲方面の買氣相當抬頭せるに拘らず、何様産地一帶の不漁で輸出は右の不振を告げたけれ共、品薄の爲相場は大体堅調を續けた。

輸出海參數量價額國別二年比較表



支那	國別		量(斤)		額(圓)	
	昭和四年	昭和三年	增減(△)	昭和四年	昭和三年	增減(△)
	一四,七六三	一九,三二六	△	一七,六三三	一九,一六六	△
						一,四三三

移出海參仕向地別數量價額二年比較表

仕向地	數量		價		額	
	昭和四年	昭和三年	增減(△)	昭和四年	昭和三年	增減(△)
大阪	一,〇一一	一,四七七	△	一,一五二	一,五二四	△
神戸	一,〇〇〇	—	△	六,〇〇〇	—	六,〇〇〇
下關	一,〇〇〇	六,八五〇	△	四,〇〇〇	一〇六,六六七	△
門司	一,〇〇〇	一,〇〇〇	△	一,〇〇一	一,一七二	△
長崎	一,〇〇〇	一,一七五	△	三,〇九三	二,九七二	△
其他	二,八二四	一,〇四五	△	三,二八八	一,〇一六	△
合計	五,八二五	二二,五六一	△	六,六四四	二二,六八六	△

海參平均相場月別一覽表

品名	柄單位	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均	前平均
南鮮物合製上等品	百斤	三三,〇〇〇	三三,〇〇〇	三三,〇〇〇	三三,〇〇〇	三三,〇〇〇	三三,〇〇〇	三三,〇〇〇	三三,〇〇〇	三三,〇〇〇	三三,〇〇〇	三三,〇〇〇	三三,〇〇〇	三三,〇〇〇	三三,〇〇〇

清酒

數量 五十餘石 前年に比し減少 二十餘石  
 價額 五千餘圓 同 二千餘圓

南鮮地方産の清酒は、其の品質逐年向上して内地銘酒にも殆ど遜色を見ざるに至り、値安の関係より漸次移入酒の領域を浸害しつつあるものゝ様であるけれど、一般財界不況の折柄なれば當地の醸造高に於ては近年却つて減少の傾向を示し、輸出餘力の如きに至つても多くを期待し得ざる状態にあり、而も從來の需要地たる滿洲及間島方面に於ても不景氣の爲兎角賣行抄々しからざる模様で引合減少したが、本年の仕向地は奉天、安東、營口、琿春、龍井村であつた。

因に南鮮の主要醸造地たる釜山と馬山との清酒造石高を掲記すれば左の如くである。

釜山	馬山
昭和四酒造年度 一〇,一六四石	一〇,四八一石
同三酒造年度 一〇,六五二石	一〇,八二三石

輸出清酒數量價額國別二年比較表

支那	數量(斤)		價額(圓)	
	昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
五、七、四〇	八、三、四〇	△	五、三、七〇	八、三、二〇
			△	二、六、四〇

輸出向清酒平均相場月別一覽表

商標又ハ柄	單位	月												平均	前年
		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月		
佐壽賀上	一樽	五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇
	五斗	五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇

罐詰鱧詰及壺詰食物

數量 三萬九千餘打 前年に比し増加 二萬六千餘打  
 價額 十八萬七千餘圓 同 十萬九千餘圓

右の種類別數量は鮑二萬二千餘打、蟹三千餘打、鯖三百餘打、其他一萬三千餘打で、前年に比し鮑一萬三千餘打の増加を筆頭に、何れも増進したが、此の外移出高に於ては鮑一萬六千餘打十萬餘圓、蟹五萬二千餘打十九萬四千餘圓、鯖五萬二千餘打九萬八千餘圓、鰻一萬一千餘打三萬三千餘圓、其他十萬餘圓で、前年に比

し鮑三千餘打二萬七千餘圓の減退、蟹四萬二千餘打十四萬三千餘圓の増加、鯖は數量二千餘打の増加、價額三千餘圓の減少、鰻三千餘打一萬一千餘圓の減退、其他三千餘圓の増進を示したが、之等の内には更に外國へ積出されたもの相當あるのは言ふ迄も無く、對支貿易の回復と北鮮に於ける毛蟹罐詰製造の發展等に因り本年當地に於ける罐詰の荷動きは稍好況を呈したものと観る事が出来る。

(A) 鮑 罐 詰

當地出廻品は江原道、慶北物大部分を占め、城津其他の北鮮物に僅少の濟州島等全南物もあるが、春季慶北方面は多少好漁を傳へられたけれ共、江原道を初め漁場一帯に漸次漁獲高を減じ採算困難となる傾向あり、秋季の如きは之が爲生産手控を爲せる地方もあつた模様である、併しながら年初日支交渉の成立を見るや、久しく支那輸出は杜絶同様の状態にあつて相當生産者の手持もあつた折柄なれば、値段を度外視して引合に應ずる向も出で、支那輸出好化の先陣を勤めた形で出荷好況を辿つた、而して輸出高は殆ど全部上海に仕向けられたものであるが、直接輸出増加の爲長崎、關門等の内地經由を減少して移出高は既記の通振はなかつたけれ共、輸移出總額に於ては前年に比し九千餘打の増加を示した。

(B) 蟹 罐 詰

「タラバ」、「ズワイ」、毛蟹の三種あり「タラバ」、「ズワイ」は三陟、甘浦等江原道及慶北より出廻るけれ共本年は不漁、原料高の爲生産振はず廻着高も前年に比し減退したが、昨年より漸く發達の機運に向つた毛

蟹は、本年に入るや新昌、新甫、城津等北鮮方面に於ける生産異常の増加を告げ、當地水産製品検査所の検査合格数を見るも六千三百餘箱を算し、前年に比すれば五千五百餘箱の増加を示した、從來毛蟹罐詰の製造は技術上甚だ困難を伴ふたれ共、近來容器罐の進歩と處理法の發達とに因り製品の品質向上したる折柄、値安の爲米國、臺灣、支那方面等の需要抬頭し急進的に生産の増加を見るに至つたのであるが、此の結果小設備を以て大量生産を行はむとせるもの多く従つて粗製に流るゝ傾きもあつた、而して主たる仕向地は米國であつて、右直接輸出高の外、神戸移出品の大半も同方面に仕向けられたものであり、又歳末に至り「シドニー」、「メルボルン」方面にも販路を擴張せられたが、本品の大生産者朝鮮輸出水産株式會社は之が容器罐の約半数を米國より輸入し内地製罐と併用生産して居た模様である。

尚蟹罐詰移出高の内、神戸仕向一萬八千餘打、臺灣仕向一萬一千餘打、門司仕向二千餘打が主なるものであつた。

(C) 鯖 罐 詰

右の輸出高は大部分滿洲方面に仕向けたもので、此の外門司及神戸に移出せるものゝ内「マニラ」、「シンガポール」、「ジャバ」、英國等にも輸出せられたものがあるれ共、元來本品の主要需要地は臺灣であつて總移出高五萬二千餘打の内同地仕向は四萬二千餘打に達して居る、同地の需要は漸次順調を示し本年の如き原魚の漁況捗々しからざる爲注文に追はるゝ状態にあつたが、相場は時節柄軟弱であつた、出廻品の大部分は水煮で當地産を主とし九龍浦等慶北産のものも多少あつた。

(D) 其他 罐 詰

主なるものは鰻、蝶螺、蠣、蛤、鱒、貝柱等であるが、鰻は釜山、河東、蔚山等の産、蝶螺は濟州島産殆ど全部を占め、蠣は釜山、甘浦産、蛤は釜山、甘浦、統營産、鱒は元山、釜山産、貝柱は釜山産で、當地出廻高は前年に比し鰻、鱒及貝柱は稍減じたれども、蝶螺、蠣、蛤は相當増加した、鰻、蝶螺は近來品質向上して滿洲、上海方面を初め南洋等に直接又は内地經由仕向けらるゝもの漸く増加の傾向にあるが、蝶螺は臺灣の需要好況で其の大半は臺北、基隆に仕向けられた、又蛤は昨年來米國に仕向けられて相當嗜好に投せるものゝ様であるが、更に本年は蠣罐詰の生産を見之亦米國へ輸出せられ、直接出荷したるもの前者五千八百餘打、後者四千一百餘打に達した、併しながら右は共に其の原料の關係上、近き將來に於ては大なる期待は爲し難きものと觀られて居る、其他鱒、貝柱等内地經由にて支那、其他の外國に輸出せられて居るが、此の數量は未だ多くない見込である。

輸出罐詰、鰻詰及壺詰食物數量價額國別二年對照表

種別	支那		米國		滿洲		計		昭和三年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
鮑	三、三五四	二七、八一〇	—	—	—	—	三、三五四	二七、八一〇	九、三六六	六、三五七

年別	蟹		鯖		其他		計
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	
昭和三年	一、二六	三、九八	三、〇〇	五、五	三、二六	七、七二	一、二九
昭和二年	一、二六	三、九八	三、〇〇	五、五	三、二六	七、七二	一、二九
計	二、五二	七、九六	六、〇〇	一一、〇	六、五二	一五、〇	二、五八

移出罐詰鱈詰及壺詰食物仕向地別數量價額二年對照表

單位 數量 價額 圓打

年別	仕向地	三昭和		四昭和		計
		數量	價額	數量	價額	
昭和三年	大阪	一、〇	八、〇	一、〇	八、〇	二、〇
	神戸	一、〇	八、〇	一、〇	八、〇	二、〇
昭和二年	大阪	一、〇	八、〇	一、〇	八、〇	二、〇
	神戸	一、〇	八、〇	一、〇	八、〇	二、〇
計	大阪	二、〇	一六、〇	二、〇	一六、〇	四、〇
	神戸	二、〇	一六、〇	二、〇	一六、〇	四、〇

輸向罐詰平均相場月別一覽表

品名	仕向地	月別												平均	前年
		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月		
鮑ホイル	一箱	二七、〇〇	二六、〇〇	二六、〇〇	二六、〇〇	二五、四七	二五、三三	二五、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二六、七五
六十匁入	一箱	二七、〇〇	二六、〇〇	二六、〇〇	二六、〇〇	二五、四七	二五、三三	二五、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二六、七五
味付	一箱	六、〇〇	六、〇〇	六、〇〇	六、〇〇	五、九〇	五、八〇	五、八〇	六、〇〇	六、〇〇	六、〇〇	六、〇〇	六、〇〇	六、〇〇	六、〇〇
六十匁入	一箱	六、〇〇	六、〇〇	六、〇〇	六、〇〇	五、九〇	五、八〇	五、八〇	六、〇〇	六、〇〇	六、〇〇	六、〇〇	六、〇〇	六、〇〇	六、〇〇
タラバ	一箱	二五、〇〇	二五、〇〇	二五、〇〇	二五、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二五、〇〇
五十匁入	一箱	二五、〇〇	二五、〇〇	二五、〇〇	二五、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二五、〇〇
毛	一箱	二五、〇〇	二五、〇〇	二五、〇〇	二五、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二五、〇〇
五十匁入	一箱	二五、〇〇	二五、〇〇	二五、〇〇	二五、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二五、〇〇
同	一箱	二五、〇〇	二五、〇〇	二五、〇〇	二五、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二四、〇〇	二五、〇〇

地下足袋

數量 三萬六千餘足 前年に比し増加 三萬三千餘足  
 價額 二萬四千餘圓 同 二萬三千餘圓

近年地下足袋は、品質の改善に伴ふ耐久力の向上、大量生産等に基く値段の格安等から、其の需要は一般に漸増の傾向を示し、鮮人及支那人労働者の間にも急進的に需要の抬頭を見つゝあつて、當港本年の移入高の如きも二百四十七萬餘圓を算し、内地より鐵道に依り當港を通過して滿洲に仕向けらるゝものも著しく増加の趨勢を示して居る。

而して右輸出高の大部分は本年二月の支那關稅改正を見越し安東、長春、撫順方面へ積出せる久留米つちや足袋會社の製品であるが、急送する關係上當港に於て輸出手續を了せるものであつた。

輸出地下足袋數量價額國別二年比較表

支 那	數量(足)		價 額(圓)	
	昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
	増	減(△)	増	減(△)
	三六、九一〇	三七、七五五	三三、一五五	二四、六二二
				一、九四〇
				三三、〇八一

黒 鉛

數量 二百八萬餘斤 前年に比し増加 十六萬餘斤  
 價額 六萬四千餘圓 同 二萬餘圓

前年に引續き米國に向け大口物兩三度の直接出荷を見、又支那に對しても小口物ながら大連、上海仕向は順調なる推移を示したが、米國及上海に仕向けたものは原礦の儘であるけれ共、大連に仕向けたものは殆ど全部當地にて粉碎せられたものである、尙内地移出品の内、米國、支那等に輸出せられたものも相當ある見込であるが、本年の移出高は二千三百五十九萬餘斤五十五萬餘圓で、前年に比し七十六萬餘斤二萬餘圓の増進を告げた、化學工業等電氣關係諸事業の發達に連れて電極用としての本品の需要は逐年増加の趨勢にあり

又鑄型用、乾電池用、塗料原料、機械の磨滅防止料等種々の方面の消費も漸次増進の傾向にはあるが、何様一般不景氣の打撃を受けて相場は軟狀を脱しなかつた、尤も金解禁、爲替恢復の結果よりする「セイロン」島産の壓迫としては、鱗狀に付ては見られるかも知れないが當地積出品の如き土狀の安値品に付ては直接の影響は無きものと觀られて居る。

移出品の主なる仕向地は北陸青海、九州大牟田の電氣化學工業、信越方面の石灰窒素、カーバイト工業、其他東京、横濱、名古屋等の地方である。

輸出黒鉛數量價額國別二年比較表

支 那	數量(百斤)		價 額(圓)	
	昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
	増	減(△)	増	減(△)
	九、一五五	一、五二四	七、六一	三、三三三
	一一、三三四	一七、〇七九	四〇、八〇〇	三七、九四四
	二〇、〇二二	一七、四四四	一、九〇六	一、八一四
				二、七六七
				二、七六六

移出黒鉛仕向地別數量價額二年比較表

仕向地	數量(百斤)		價額(圓)	
	昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
大阪	六、七九〇	六、五八〇	一六、三三三	一五、八〇二
神戶	一四、四二七	一三、六八八	三四、〇〇〇	三三、七〇三
名古屋	一六、八八〇	一六、五三六	三六、二三五	三六、六七五
横濱	一一、六三三	五、六九六	二七、九九〇	一三、二四〇
東京	三、三三三	二、三〇七	五、二五五	五、〇四九
敦賀	六、二七三	一〇、九〇〇	一五、二四八	二四、五三三
門司	一一、四八八	一〇、七一一	二七、〇六八	四六、三七一
其他	一四、五〇三	一三、八八七	三三、三〇九	二六、一八〇
計	三三、七〇七	三六、三〇七	三三、〇二二	三六、三〇二
		増減(△)		増減(△)
		△		△

黒鉛平均相場月別一覽表

品柄	單位	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均	前年
土狀並	一噸	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

陶磁器

價額 四萬八千餘圓 前年に比し増加 四千餘圓

此の内約一萬八千圓は上海に直接仕向けたものであるが、其他は全部滿洲へ出荷したもので、右の上海輸出は前年に比し相當増加して居るけれども其之は從來の内地經由品が一部輸出経路を變更したものに過ぎない、而して滿洲仕向は當地の硬質陶器と内地産の日用食器及便器等の類であつたが、上海輸出は全部如上硬質陶器で、當地硬質陶器會社の製品は右の如く直接支那に仕向けるものと、外大部分は内地を經由して南洋、印度及馬來半島、南支那等に輸出せられて居る、然るに本年當港の陶磁器總移出高は神戸の三十萬餘圓を筆頭に大阪四萬餘圓、名古屋、東京各一萬餘圓等、合計四十萬餘圓で、前年に比し三萬餘圓の増加を示したが、右の神戸移出は殆ど全部硬質陶器と觀て大差無く、其他の地方に仕向けたものは多く京城方面よりの新高麗燒である。

硬質陶器の輸出狀況を觀るに、本年上半期は對外爲替相場の足取り亂調の爲取引上打撃を蒙り、又下半期に入り同相場は漸く順調なる騰勢を見せたが昂騰の結果は結局引合を困難ならしむる事となり、且つ主要仕向地たる南洋及印度方面も生産品の歐米輸出不振の爲尠ならず購買力を減退しつつある等、輸出上惡材料多く相場も自然下落を免れなかつた。

因に當地硬質陶器會社本年の生産高及主要仕向地別數量等を掲記すれば左の通である。

(A) 生産高

第二外國貿易(貨物)

第二外國貿易(貨物)

洋食器	皿類	五、九六〇千個
碗類	二二五	
和食器	内地人向	一、一八三
鮮人向	七、三七五	
計		
(B) 仕向高		
南洋	三、六八五千個	印度及馬來半島
南支那	一六一	滿洲
内地	一二九	朝鮮
計	六、六九一	一、〇八九
(C) 當地渡平均相場		
洋肉皿	白並八吋一打(一等品)	九二〇
	同(二等品)	七三六
洋スープ皿	白並八吋一打(一等品)	一、〇二〇
	同(二等品)	八一六

輸出陶磁器價額國別二年比較表

支那	國別	數量(一)		價額(圓)	
		昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
				四八、五五	四三、七五
					四、七六九

移出陶磁器仕向地別價額二年比較表

仕向地	數量(一)		價額(圓)	
	昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
大坂			四八、五五	四三、七五
神戶				四、七六九
名古屋				
東京				
其他				
計			四八、五五	四三、七五

〔三〕輸入貨物貿易

第二外國貿易(貨物)

輸入貿易を對象國別に觀察すれば、支那の二百五十萬餘圓を筆頭に、米國の二百八萬餘圓第二位を占め、英領印度一百二十四萬餘圓、佛領印度一百十萬餘圓、露領亞細亞八十五萬餘圓、英國三十八萬餘圓等の順位で前年に比較すれば米國八十二萬餘圓、露領亞細亞二十一萬餘圓を増加したが、支那五十一萬餘圓、英領印度七十四萬餘圓、蘭領印度十萬餘圓、佛領印度六十七萬餘圓、暹羅二十三萬餘圓、獨逸二十二萬餘圓、英吉利十六萬餘圓等概ね減退した、而して輸入品としては支那より粟、鹽、麻布、石炭、肥料、英領印度より米、煙草、礦油、佛領印度より米、石炭、露領亞細亞より木材、比律賓より煙草、暹羅より米、獨逸より硫安、英國より織物機械類、米國より礦油、木材等主なるものであつた、左に國別二年比較表を掲げる。

輸入貨物貿易額國別二年比較表 (圓)

國別	昭和四年	昭和三年	増減(△)	國別	昭和四年	昭和三年	増減(△)
支那	二,五五,三七	三,〇一五,六三	△ 五一〇,六六	佛蘭西	六三三	二,六〇一	△ 一,九六八
香港	二一	一,三六九	△ 一,〇八八	獨逸	六四,六六	二八,九八八	△ 三六,六八〇
英領印度	一,一四七,三三	一,九一,四七四	△ 七四,四四	瑞西	五〇,九六	五五,五〇八	△ 四,六〇四
英領海峽殖民地	一七	五,〇五二	△ 五,〇三五	西班牙	三四	八,九五四	△ 八,六二〇
蘭領印度	四一,三三	一四八,四三	△ 一〇七,一〇	北米合衆國	二,〇八〇,六二	一,二五,一八七	△ 一,八三五,四三三
佛領印度	一,一〇九,〇七	一,七三,七二七	△ 六二四,六五〇	加拿大	七九,〇六	一〇九	△ 三〇,〇〇四

露領亞細亞	八五三,一六四	六四一,八六	△ 二一〇,二六六	漆太刺利	九,七三三	四,八九三	△ 五,八四〇
比律賓諸島	五三,八六五	一〇九,四四五	△ 五五,五九〇	其他ノ諸國	一一	四,二五八	△ 四,二四七
暹羅	四八,六八	三六,二二	△ 一三,四六	保稅工場	六六六,一四三	一四七,七三三	△ 五一八,四一〇
英吉利	三六九,六九五	五五,一〇四	△ 三一四,五〇一	計	二,〇〇一,九	一,〇〇五,四	△ 一,〇〇六,五〇〇

本港輸入貿易上密接なる關係を有する支那に對しては上海、大連定期航路利用増進と銀相場低落に伴ふ採算有利も手傳ひ可なり好調を呈せしも、露支國交の動搖から粟其他北滿物資の陸路南下を著しく妨ぐるに至つたのみならず、浦鹽經由輸入は之が爲硬塞の状態にて、露領亞細亞との貿易は依然不振を辿り唯一の取引品沿海州木材の外殆ど見るべきものはなかつた、其他の外國より輸入せられるものも、揮發油の如きは關稅特例廢止以來内地を經由するもの増加し、殊に本年は爲替の昂騰、銀塊續落等物價下落の趨勢は小口取引を漸増せしめ、加ふるに金解禁先行の不安、國産品愛用の打撃も少なからず、燈油、木材、繰綿等、二、三著しく増加せるものなきにあらざれども、本港輸入重要な地位を占むる天日鹽、葉煙草、機械類、肥料等減退せる外、需要の不振に基く外國米、粟の顯著なる入減に因り輸入總額に於て結局減少を來した、左に輸入主要品を前年と比較對照する。

輸入貨物數量價額種別二年比較表



品名	單位	數量		價		額	
		昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
米及	百斤	三三,四七〇	三三,四〇三	△	一,五九八,六一九	一,五九八,六一九	△
粟	同	六九,四〇〇	一五,七九七	△	四三,三三三	八三,〇〇九	△
高粱	同	二,九二九	三,七八六	△	一一,六八五	一五,七四三	△
黍	同	二〇,一五四	九,八〇九	△	一〇,八六六	六,四三一	△
大豆	同	九,五〇六	一一,〇九六	△	六九,九九九	七六,六三三	△
小豆	同	六,五三〇	一,四八〇	△	三六,五三七	九,二五三	△
蠶豆	同	二,二〇一	二,八六三	△	一五,九七一	二〇,六三三	△
綠豆	同	五,六六九	六,三三三	△	六,五三四	九,一九五	△
其他	同	四九	一	△	二,七七七	〇	△
計	同	一九,二五六	一六,四八六	△	一三,七八八	一〇,〇六一	△
小麥	斤	五,三三六	八,一二五	△	六八,四七一	七,四三三	△
胡椒	斤	一,八四四	三,五五一	△	三〇,六一	一,五八一	△
砂糖	斤	七〇〇	一,三三三	△	三〇,六一	三,七三三	△
其他	斤	九七,六三三	六,九三三	△	九,二五三	五,六三七	△

品名	單位	數量		價		額	
		昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
コンデンスミルク	同	一,七〇九	〇	△	四三四	〇	△
天日鹽(不碎)	百斤	三六,一五二	八六,六一二	△	三九,四六六	六四,八八四	△
鳥卵	斤	一,八八〇	四,七七三	△	六四四	一,七二八	△
葉煙草	同	七二,七七七	一,八八,一〇七	△	一六八,三六〇	四九,一三三	△
原油及重油	瓦	四,〇三二,八九九	二,九四三,四四五	△	七六,九九二	六四,三九八	△
揮發油	同	五五,一三六	一,一九一,八〇〇	△	三七,二〇九	八〇七,六三三	△
燈油	同	三,五三〇,三五五	二,〇七一,三三三	△	一,七八,七三三	一,二四,三三三	△
輕油	同	四一五,六六六	四九七,四三三	△	三三,二四二	三三,二四二	△
機械油	同	三三,八〇三	二二,九九三	△	三,六九〇	三,三三三	△
巴拉フ油	同	五〇,二九七	五七〇,四六七	△	九九,五〇三	一〇七,八九〇	△
藥材、化學藥、製藥及同調合品	同	〇	〇	△	〇	〇	△
絲	百斤	三,三六六	〇	△	一五,〇四三	一五,七五三	△
綿織	斤	一六,四八八	〇	△	一〇,九四〇	〇	△
毛織	同	九,二八三	〇	△	三二,〇〇九	七〇,五六一	△
晒金巾及晒シナシ	同	一〇	〇	△	八	〇	△
晒シナシ	同	一〇九,一一五	一六四,四三七	△	三,八三三	五〇,八五一	△
寒冷紗	同	五,五〇〇	一三,二二五	△	七六	二,八七四	△
綿	同	〇	〇	△	〇	〇	△
其他ノ平織布	同	一三,二四七	八二,一六三	△	四,七一	四,三三三	△



小包郵便物 (織物を除く)	通計	再輸入品	全計
11,111,111	10,101,010	10,101,010	10,101,010
△	△	△	△

●輸入重要品  
米 及 粃

數量 二千二百二十四萬餘斤 前年に比し減少 一千一百十五萬餘斤  
價額 一百九十九萬餘圓 同 同 七十二萬餘圓

外米の輸入制限は本年内鮮同様に延長せられたれ共別に制限關係の影響等はなかつたが、南鮮の不作よりして年初本品の需要擡頭を氣構へられたに拘らず、何様鮮米安、移出不振等の原因から實需甚だ不況を呈し又神戸、門司經由の移入増加に加へて取引の便宜上臺灣經由で移入せられたものも多少あつたので、輸入は右の減少を示した、移入米としては右外米の増加に加へて臺灣米及内地米も入増したので米の輸入高に於ては相當増進を示したが、當地に於ける外米市場は昨年共同管理販賣組織に改めて以來、從來の如き無謀なる思惑取引は姿を潜めて只消化の見込ある範圍に於て買付を行ふと云ふ頗る堅實なる取引傾向を生じ、尙臺

灣米は食糧米としての需要は值鞘の關係上勿論外米に及ばなかつたけれども、産地の増收、鮮米極度の品掠れから酒造方面の需要を一層喚起し下半期の入荷特に顯著なものがあつた、相場は臺灣米の値下りに反して外米は管理團の協定に依つて支へられ割合高値を持續し前年より幾分の値上りを見た、又移入内地米の大半は九州地方産の政府拂下米で、多くは中白として漁場方面へ振向けられた。

輸入米及粃數量價額國別二年比較表

國別	數量(百斤)		價額(圓)	
	昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
英領印度	六四、五八	二七、四六	四八、三五	一八、四六
佛領印度	一四、五三	三六、六七	一〇、九三	一七、三三
暹羅	三、三三	五七、四七	三〇、五三	一八、五三
支那	七	三	八〇	一五
計	三三、四〇	三三、〇〇	一、五六、六九	二、三三、三三

移入外國米仕出地別數量價額二年比較表

仕出地	數量(百斤)		價額(圓)	
	昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
增				
減(△)				

仕出地	昭和四年		昭和三年		増減(△)	昭和四年		昭和三年		増減(圓)
	量(百斤)	價	量(百斤)	價		量(百斤)	價	量(百斤)	價	
神戶	14,100	10,900	10,900	3,150	15,300	3,700	9,900	2,700	5,200	2,700
横濱	3,500	9,150	9,150	3,500	8,400	8,400	8,400	8,400	0	0
東京	5,000	6,200	6,200	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	0	0
下關	5,200	5,600	5,600	5,200	5,200	5,200	5,200	5,200	0	0
門司	2,200	2,200	2,200	2,200	2,200	2,200	2,200	2,200	0	0
長崎	9,600	9,600	9,600	9,600	9,600	9,600	9,600	9,600	0	0
臺灣	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800	0	0
其他	30,300	18,100	18,100	30,300	30,300	14,100	14,100	14,100	0	0
計	100,000	115,000	115,000	100,000	115,000	115,000	115,000	115,000	0	0

移入臺灣米仕出地別數量價額二年比較表

仕出地	昭和四年		昭和三年		増減(△)	昭和四年		昭和三年		増減(圓)
	量(百斤)	價	量(百斤)	價		量(百斤)	價	量(百斤)	價	
神戶	10,600	1,870	1,870	8,700	10,600	1,870	3,300	8,700	1,900	1,900
下關	1,900	3,400	3,400	1,900	1,900	1,900	1,900	1,900	0	0
門司	3,500	1,270	1,270	2,200	3,500	1,270	1,500	2,200	600	600
臺灣	6,000	3,100	3,100	6,000	6,000	3,100	3,500	3,500	0	0
計	22,000	10,640	10,640	22,000	22,000	10,640	22,000	22,000	0	0

外國米及臺灣米平均相場月別一覽表

品名	柄	單位	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均	前年
關東白米	同	百斤	8.50	8.50	8.50	8.50	8.50	8.50	9.00	9.35	9.70	10.00	10.50	10.00	9.23	8.70
四貢白米	同	同	8.50	8.50	8.50	8.50	8.50	8.50	9.15	9.60	10.00	10.50	10.50	10.00	9.17	8.80
臺灣糯米	同	同	10.60	10.60	10.60	10.60	10.60	10.60	10.60	10.60	10.60	10.60	10.60	10.60	10.60	10.60
其他	計	同	10.70	10.70	10.70	10.70	10.70	10.70	10.70	10.70	10.70	10.70	10.70	10.70	10.70	10.70

粟

數量 六百九十五萬餘斤 前年に比し減少 八百七十二萬餘斤  
 價額 四十二萬餘圓 同 三十九萬餘圓

本品の大部分は鐵路輸入された南滿産であるが、海路輸入も定期航路の利用増進に因り大連經由は引續可なり輸入を見たにも拘らず、東支線の運賃關係や露支國交の紛糾から、北滿産の浦鹽經由は絶望状態に陥り入荷皆無であつた、市況は鮮米減收、財界不況に伴ふ代用食需要増加見込と關稅問題に依る見越輸入と相俟

つて上半期相當入荷を促せしも、地場の需要は從來の習慣上兎角外米に引付けられる傾向あるのみならず、産地滿洲に於ける逐年的消費の増大と南北を通じて昨年不作に依る高値相場の出現は、下半期に入り鮮米の安値持續と外米との値巾縮少の爲、一段需要減退を招致し遂に叙上の結果を見た、相場は作柄の不良に加ふるに、軍需品買占等の打撃も少なからず産地の引締から當地も高値を辿つたが、新粟の出廻以來銀安と豊作とで急轉直下珍らしき安値に落込んだ。

輸入粟數量價額國別二年比較表

支那	數量(百斤)		價額(圓)	
	昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
	増	減(△)	増	減(△)
支那	六九、五四〇	一六、七五七	四三、三三三	八二、〇五九
	△	△	△	△
			三六、六六六	

粟平均相場月別一覽表

品名	柄	單位	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均	前年
南滿(産)	南	百斤	七、三〇	七、四〇	七、五〇	七、一〇	七、一〇	七、三〇	七、四〇	七、六〇	七、七〇	七、八〇	六、九〇	六、九〇	七、〇〇	六、九〇
北滿(産)	北	百斤	七、一〇	七、一〇	六、九〇	六、八〇	六、七五	六、八〇	六、九〇	七、一〇	七、一〇	七、一〇	—	—	七、〇〇	六、九〇
同(一等品)	同	百斤	七、一〇	七、一〇	六、九〇	六、八〇	六、七五	六、八〇	六、九〇	七、一〇	七、一〇	七、一〇	—	—	七、〇〇	六、九〇

黍

數量 二百一萬餘斤 前年に比し増加 一百三萬餘斤  
 價額 十萬餘圓 同 五萬餘圓

右は鐵路に依つて輸入された滿洲四平街地方産のものである。俗に「モチ粟」と云ひ、相當粘り氣が強く製餡原料にも多少使用せられる様であるが、大部分は鮮人混食用に需要せられるのである、然るに外米、粟、其他一般代用食糧品の不勢に賣行の不振を氣遣はれしも、不況深刻な結果反つて好影響を受け格安の爲、他の代用食糧品に比し好調を持續し、特に慶北地方仕向の良好から輸入高も遙かに前年を凌駕するの盛況を見たのは寧ろ豫想外の商情である、相場は銀安に叩かれ前年より一層下値を廻つた。

輸入黍數量價額國別二年比較表

支那	數量(百斤)		價額(圓)	
	昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
	増	減(△)	増	減(△)
支那	二〇、一五五	九、八〇九	一〇、三三五	一〇、八、六六六
	△	△	△	△
			五、八、三四二	五〇、二、六五五

黍平均相場月別一覽表

品名	柄單位	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均	前平均
南滿產(並)	百斤	七、五	一	七、〇〇	六、五〇	六、五〇	六、七五	六、五〇	六、〇〇	七、〇〇	七、七〇	六、七〇	六、一〇	六、四六	七、〇〇

豆類

數量 一百九十二萬餘斤 前年に比し増加 二十七萬餘斤  
 價額 十三萬餘圓 同 同 一萬餘圓

種類別に見れば、小豆九十五萬餘斤六萬餘圓、蠶豆六十五萬餘斤三萬餘圓、綠豆二十二萬餘斤一萬餘圓、落花生五萬餘斤六千餘圓、其他四萬餘斤二千餘圓等で、前年に比し蠶豆の増加を見た外、大豆、小豆、綠豆、落花生等孰れも幾分の減少である、右の内最も取引の多い小豆は公主嶺、四平街、長春地方より鐵路輸入せられる赤小豆であるが、鮮人食糧向には小粒で皮薄く且つ値安の爲從來より相當歡迎されて居る、併し本年は粟同様不作と時局の影響等産地の不勢に、加ふるに北鮮産の廻着増等の關係もあつて入荷減退し、又綠豆は一部分上海地方より入荷を見ることあるも、主として長春、范家屯地方よりの出廻品で需要は「モヤシ」を主とし馬糧、豆腐等にも用ひられるが、銀の續落に買控へられ大豆も入荷皆無に了り、尙蠶豆は上海より、落花生は青島より輸入されたものである、而して蠶豆に種類はないが粒に大、中、小あつて粒の大きい程幾分値も張る様である、落花生は主要取引先菓子屋向賣行の不振から減少せしも、蠶豆の需要は煎豆を初め其

他一般向である處から輸入増進を示したが、其の反面に於て内地經由移入は前年より多少減退を免れなかつた、其他の豆類中稍見るべきものは上海仕出の豌豆で需要方面は菓子原料向であつた。

輸入豆類數量價額國別二年對照表

單位 數量 價額 百斤 圓

種別	國別	昭和二年		昭和三年	
		數量	價額	數量	價額
大豆	大	九、五〇六	六九、九九九	一、〇九六	七、六〇三
蠶豆	蠶	六、五三〇	三八、五七七	一、四八〇	九、一三五
綠豆	綠	二、一〇一	一五、九七一	二、八六三	二〇、六六三
落花生	落	五、六九九	六、五三四	六、五五	九、一三五
其他	其	四、四九	二、七三	一	一〇
計	計	一九、五五六	一二三、八八三	一六、四六六	一一〇、六三一

移入豆類仕出地別數量價額二年對照表

單位 數量 價額 百斤 圓

種別	仕出地別	昭和二年		昭和三年	
		數量	價額	數量	價額
大豆	神戶	九、五〇六	六九、九九九	一、〇九六	七、六〇三
蠶豆	下關	六、五三〇	三八、五七七	一、四八〇	九、一三五
綠豆	門司	二、一〇一	一五、九七一	二、八六三	二〇、六六三
落花生	長崎	五、六九九	六、五三四	六、五五	九、一三五
其他	其他	四、四九	二、七三	一	一〇
計	計	一九、五五六	一二三、八八三	一六、四六六	一一〇、六三一

品	柄單位	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均	前年
小豆	一石	一、七五二	一、七五二	一、七五二	一、七五二	一、七五二	一、七五二	一、七五二	一、七五二	一、七五二	一、七五二	一、七五二	一、七五二	一、七五二	一、七五二
蠶豆	一石	一、七五二	一、七五二	一、七五二	一、七五二	一、七五二	一、七五二	一、七五二	一、七五二	一、七五二	一、七五二	一、七五二	一、七五二	一、七五二	一、七五二
其他	一石	一、七五二	一、七五二	一、七五二	一、七五二	一、七五二	一、七五二	一、七五二	一、七五二	一、七五二	一、七五二	一、七五二	一、七五二	一、七五二	一、七五二
計	一石	一、七五二	一、七五二	一、七五二	一、七五二	一、七五二	一、七五二	一、七五二	一、七五二	一、七五二	一、七五二	一、七五二	一、七五二	一、七五二	一、七五二

豆類平均相場月別一覽表

品	柄單位	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均	前年
南滿產	一石	二、〇七五	二、〇七五	二、〇七五	二、〇七五	二、〇七五	二、〇七五	二、〇七五	二、〇七五	二、〇七五	二、〇七五	二、〇七五	二、〇七五	二、〇七五	二、〇七五
赤小豆(並)	一石	二、〇七五	二、〇七五	二、〇七五	二、〇七五	二、〇七五	二、〇七五	二、〇七五	二、〇七五	二、〇七五	二、〇七五	二、〇七五	二、〇七五	二、〇七五	二、〇七五
北滿產	一石	二、〇七五	二、〇七五	二、〇七五	二、〇七五	二、〇七五	二、〇七五	二、〇七五	二、〇七五	二、〇七五	二、〇七五	二、〇七五	二、〇七五	二、〇七五	二、〇七五
綠豆(並)	一石	二、〇七五	二、〇七五	二、〇七五	二、〇七五	二、〇七五	二、〇七五	二、〇七五	二、〇七五	二、〇七五	二、〇七五	二、〇七五	二、〇七五	二、〇七五	二、〇七五

胡麻子

數量 五十三萬餘斤 前年に比し増加 十七萬餘斤  
 價額 五萬餘圓 同 一萬餘圓

支那胡麻の内には白、黒、赤の三種ある様であるが、當地に輸入されるのは主に上海航路便に依る漢口地方産の白と赤で、就中白胡麻最も優勢である、品種は三種共略同一なれども産地に依り多少優劣がある、値段も大体變りはないが白は赤より百斤五十錢見當上値を唱へられ、又製油上より見る時は白色のものは概して

外皮薄く香氣は低いが油分に富むと云はれて居る、需要は勿論胡麻油原料に使用される關係上、舊正、舊盆前後が荷動最も旺盛で之を引當に入荷好勢を見るのが毎年の例であるが、本年は金解禁人氣の對支爲替高に依る機會視から下半年期に至り一層増進を示した、賣行は格別變りはないけれども下半年期の値段安から漬物方面にも需要相當増進の傾向があり、相場は銀安に依つて刺戟を與へ軟弱の一途を辿つた。

輸入胡麻子數量價額國別二年比較表

支	國	數量(百斤)		價額(圓)	
		昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
支那		五、三三六	三、五五二	一、七九五	五、八四一
					四、一三二
					三、三〇〇

胡麻子平均相場月別一覽表

品	柄單位	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均	前年
漢口產	百斤	三、五五〇	三、八〇〇	三、〇〇〇	三、四〇〇	三、〇〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、八〇〇	二、七〇〇	二、五〇〇	三、四〇〇	三、三〇〇
白胡麻(並)	百斤	三、五五〇	三、八〇〇	三、〇〇〇	三、四〇〇	三、〇〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、八〇〇	二、七〇〇	二、五〇〇	三、四〇〇	三、三〇〇

天日鹽 (碎カサ)

數量 六千三百八十一萬餘斤 前年に比し減少 二千二百八十七萬餘斤

價額 三十九萬餘圓 同 二十六萬餘圓

右は關東州鹽及青島鹽であるが、鮮内官鹽の生産豊富なりし結果入荷孰れも減少を告げ、尙昨年臺灣鹽は割安から大量移入を見なければ本年は皆無であつた、地場再製鹽の發展に伴ひ從來大勢力を有せし支那天日鹽も、昨年末來官鹽拂下指定商の決定と共に、本春より朝鮮産の續々市場へ出現することとなつた爲意外なる打撃を蒙り、且つ年末に至りては輸移入鹽管理制度に絡んで當業者の成行案じから市場著しく不安状態に置かれた様である、而して需要方面は漁場向、醸造向、漬物向等主なるもので、之が消費の増減は直ちに市況に影響する譯であるが、漁場方面は内地向生魚積の増加、鹽魚の對支輸出不振に期待を裏切られ、又醬油、味噌原料方面も不景氣の爲賣行思はしからざりしも、南鮮蔬菜類が案外豊作で大根、白菜の如き前年の半値唱の爲漬物方面の取引相當増加の模様であつた、相場は鮮産增收、銀安關係に依つて弱含み原鹽、再製鹽孰れも前年より幾分下値であつた。

輸入天日鹽(碎カザルモノ)數量價額國別二年比較表

支那	國別	數量(百斤)		價額(圓)	
		昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
		增	減(△)	增	減(△)
		三六、五二	六六、六二	三九、五四六	六四、八八四
		△	三三、七〇	△	三三、七、三六

鹽平均相場月別一覽表

品名	柄單位	月												平均	前平均
		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月		
關東州粗鹽	百斤	七〇	七〇	七〇	七三	七四	八〇	八三	八五	八七	九〇	九三	九六	九八	九八
天日鹽	同	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三五	一、三五	一、三〇	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三〇	一、三〇
再製鹽	同	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三五	一、三五	一、三〇	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三〇	一、三〇
官製鹽	同	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三五	一、三五	一、三〇	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三〇	一、三〇

葉煙草

數量 七十一萬餘斤 前年に比し減少 一百十萬餘斤  
 價額 十六萬餘圓 同 二十八萬餘圓

右は青島より直接輸入された山東産米國種と神戸經由で輸入された馬尼刺産及印度等であるが、取引高は印度産最も多く支那産最も少なかつた、叙上の外横濱、神戸、門司等より外國産及内地産が八十六萬餘斤三十九萬餘圓の移入を見たが、前年に比すれば九十萬餘斤十二萬餘圓の減退で、之等輸移入品の殆ど全部は大邱專賣局仕向の卷煙草製造原料であつた。

輸入葉煙草數量價額國別二年比較表



國別	數量(斤)		價額(圓)	
	昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
支那	八九,五七七	三六五,六四四	△	二七五,九七七
比律賓	三三,八三三	五〇五,六三三	△	二六九,七七〇
英領印度	三六,六五七	八三,六六〇	△	四七,四〇三
其他	—	三三,一〇〇	△	三三,一〇〇
計	七一,七七七	一,八八,一〇四	△	一,一〇六,三三〇

移入葉煙草仕出地別數量價額二年比較表

仕向地	數量(斤)		價額(圓)	
	昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
神戶	三六,七七七	六四,一七四	△	三七四,九七七
橫濱	五三,八三三	八二,九二七	△	三三,七五〇
門司	八,六六〇	三〇五,六九九	△	二,九六五
計	八六,八六九	一,七七一,〇〇〇	△	三九六,六七七

原油及重油

數量 四百七萬餘瓦 前年に比し増加 一百十三萬餘斤  
 價額 七十二萬餘圓 同 八萬餘圓

各種動力機關の發達に加ふるに保稅工場の利用は供給上多大の便宜を有する關係から、當地に於ける燃料油の輸入は益増進の趨勢を示して居る、需要狀況は漁業、海運業方面常用的に大口取引を見る外、水利組合、瓦斯電氣、其他工業動力方面の荷動亦可なり旺盛なりし結果、財界不況時に拘らず商情活氣を見せて入増した、而して右輸入高の外、内地産及外國産の移入高は九萬餘瓦二萬餘圓で前年より少しく減少の方である。今本年中の免稅原油用途別輸入數量を掲記すれば左の如し (第七條四ノ二項該當品)

瓦斯電氣工業	四六五,四六〇瓦
其他工業	九五,七一五
海運業	一,〇二五,五六三
水利組合	七五,〇六六
漁業	一一三,三〇,四三一
計	三,九八二,二三五

輸入原油及重油數量價額國別二年比較表

國 別	數		量 (瓦)		價		額 (圓)	
	昭和四年	昭和三年	增	減 (△)	昭和四年	昭和三年	增	減 (△)
英 領 印 度	—	一、八二、七〇四	△	一、八二、七〇四	—	—	△	—
領 印 度	一五三、三三六	三三〇、一六三	△	一八六、八二七	三三、〇三三	—	△	—
北 米 合 衆 國	一五三、三三三	四四、七四九	—	—	二八、三三七	—	△	—
保 稅 工 場	三、七六、九九九	六、七、五九九	—	—	六、六、一四三	—	△	—
計	四、〇三、〇六九	二、九三、〇四三	—	—	一、一〇、〇四四	—	△	—

移入原油及重油仕出地別數量價額二年比較表

仕 出 地	數		量 (瓦)		額 (圓)	
	昭和四年	昭和三年	增	減 (△)	昭和四年	昭和三年
下 關	八、二七、〇〇〇	七、五、五〇〇	—	—	一、九、六、〇〇〇	—
其 他	三、三、三三〇	二、〇、六三三	—	—	三、〇、六六七	—
計	一一、六〇、三三〇	九、五、一三三	—	—	五、〇、六六七	—

重油平均相場月別一覽表

品 名	柄 單 位	月 別												平 均	前 年 平 均
		一 月	二 月	三 月	四 月	五 月	六 月	七 月	八 月	九 月	十 月	十 一 月	十 二 月		
ミセル油	一 樽	一、一五	一、一五	一、一五	一、一五	一、一五	一、一五	一、一五	一、一五	一、一五	一、一五	一、一五	一、一五	一、一五	一、一五
ダイヤセル油	同	一、〇五	一、〇五	一、〇五	一、〇五	一、〇五	一、〇五	一、〇五	一、〇五	一、〇五	一、〇五	一、〇五	一、〇五	一、〇五	

揮 發 油

數量 五十五萬餘瓦 前年に比し減少 六十三萬餘瓦  
 價額 三十七萬餘圓 同 四十三萬餘圓

本品は自動車交通の發達並に護謨靴製造工場の發展に伴ひ需要増進の結果入荷促進の狀態にあるが、併し輸入品は本年四月朝鮮關稅特例廢止以來、「ライジングサン」、「スタンダード」共に内地より輸入手續済のものを小口に配給することとなり、之が爲経路に多少變更を來し輸入減少の結果を見たるも、移入高は七十七萬餘瓦四十九萬餘圓で前年に比し七十三萬餘瓦四十五萬餘圓の増加である、市況は二大對立の「ラ社」の赤貝「ス社」のソコニー等從來の有力品も、値安な各種競争品の出現に依つて最近地場の需要は轉々し、黒貝票ベガサス票に限られると云ふも過言でない程壓迫を蒙るに至つた一面、テキサス産紅星は近く販賣擴張計畫の噂もあり、又内地産蝙蝠等も未だ勢力薄であるが飛行機方面に相當取引を見て居る様である、相場は特例廢止の關係から四月以來一齊一函三十錢方昂騰を現はすに至つたが財界不況、販賣競争等に依つて七月以來

反落を呈した。

輸入揮發油數量價額國別二年比較表

國別	數量(瓦)		價額(圓)	
	昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
英領印度	四三、三二	八六、六五	二七、二七	五六、四六
北米合衆國	一三、八七	三三、四五	八三、九三	三二、一七
計	五七、一九	一二〇、〇〇	一一一、二〇	八八、六三
		△	△	△
		△	△	△
		△	△	△

移入揮發油仕出地別數量價額二年比較表

仕出地	數量(瓦)		價額(圓)	
	昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
神戶	七、七四	—	四、九五	—
下關	七二、一五	三六、六一	四九、四五	三三、九四
長崎	二四、三三	—	一四、八五	—
其他	四七、八九	五、三三	二七、五二	四、五九
計	七八、二二	四一、〇五	四六、七二	三六、五三
		△	△	△
		△	△	△
		△	△	△

揮發油平均相場月別一覽表

品名	柄單位	月												平均	前年
		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月		
ライ社	一箱	七、〇〇	六、七〇	六、七〇	七、〇〇	七、〇〇	六、八五	六、八五	六、八五	六、八五	六、八五	六、八五	六、八五	六、八五	八、五六
赤貝	十瓦	七、〇〇	六、七〇	六、七〇	七、〇〇	七、〇〇	六、七五	六、七五	六、七五	六、七五	六、七五	六、七五	六、七五	八、五三	
スソ	同	六、七〇	六、七〇	六、七〇	六、八〇	六、八〇	六、七五	六、七五	六、七五	六、七五	六、七五	六、七五	六、七五	八、五三	
日石	同	六、五〇	六、五〇	六、五〇	六、八〇	六、八〇	五、九〇	五、九〇	五、九〇	五、九〇	五、九〇	五、九〇	五、九〇	七、六六	
蝙蝠	同	六、五〇	六、五〇	六、五〇	六、八〇	六、八〇	五、九〇	五、九〇	五、九〇	五、九〇	五、九〇	五、九〇	五、九〇	七、六六	

燈油

數量 三百五十三萬餘瓦 前年に比し増加 一百四十五萬餘瓦  
 價額 一百七十八萬餘圓 同 六十六萬餘圓

揮發油同様關稅特例が愈本春より廢止せられる機運顯著となつて年初來見越輸入旺盛を告げ、且つ前年下半年に入津減少の關係で地場在庫薄の折柄でもあり、米國產スタンダード物の大舉襲來に依り右の結果を見又内地經由外國油の増加に依り移入高も相當増加の方であつたが、賣行は奥地農村の不況から涉々しくなかつた様である、輸入品は「ス社」の上松、勝利票、「ラ社」の青貝票、テキサス產幸福印等で販賣競争を惹起しながら各品とも相場は特例廢止決定と同時に一函三十錢方値上を發表したが、米國油の大増産並に金解禁氣構の影響を受けて其後保合の商情を辿り年末更に弱含んだ、尙内地地產の有力なものは日石の白蝙蝠、小倉

の金小判等である。

輸入燈油數量價額國別二年比較表

國別	數量(瓦)		價額(圓)	
	昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
英領印度	二一〇、一四一	六三三、七三六	△	四〇三、四四九
南領印度	—	三六、一七三	△	三六、一七三
北米合衆國	三、三三〇、二二四	一、四一九、四〇四	△	一、九〇〇、七〇〇
計	三、五五〇、三六五	二、〇七一、三三三	△	一、二〇九、〇五五

移入燈油仕出地別數量價額二年比較表

仕出地	數量(瓦)		價額(圓)	
	昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
東京	五、〇八〇	二、三〇〇	△	一、五〇〇
下關	四、八七五	二八、三三〇	△	一、七、六五五
門司	七、二六〇	三三、一〇〇	△	三、九七〇
長崎	二一、一五〇	—	△	一、五、六九五

燈油平均相場月別一覽表

品名	柄單位	月別												平均	前平均
		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月		
「ス」社	一箱	七、一五	七、一五	七、一五	七、一五	七、一五	七、一五	七、一五	七、一五	七、一五	七、一五	七、一五	七、一五	七、一五	七、一五
同上	十瓦	六、八五	六、八五	六、八五	六、八五	六、八五	六、八五	六、八五	六、八五	六、八五	六、八五	六、八五	六、八五	六、八五	六、八五
勝利	同	六、八五	六、八五	六、八五	六、八五	六、八五	六、八五	六、八五	六、八五	六、八五	六、八五	六、八五	六、八五	六、八五	六、八五
「ライ」社	同	七、〇〇	七、〇〇	七、〇〇	七、〇〇	七、〇〇	七、〇〇	七、〇〇	七、〇〇	七、〇〇	七、〇〇	七、〇〇	七、〇〇	七、〇〇	七、〇〇
貝利	同	六、二〇	六、二〇	六、二〇	六、二〇	六、二〇	六、二〇	六、二〇	六、二〇	六、二〇	六、二〇	六、二〇	六、二〇	六、二〇	六、二〇
白石	同	六、二〇	六、二〇	六、二〇	六、二〇	六、二〇	六、二〇	六、二〇	六、二〇	六、二〇	六、二〇	六、二〇	六、二〇	六、二〇	六、二〇
白蟻	同	六、二〇	六、二〇	六、二〇	六、二〇	六、二〇	六、二〇	六、二〇	六、二〇	六、二〇	六、二〇	六、二〇	六、二〇	六、二〇	六、二〇
其他		二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇
計		二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇

機械油

數量 二十二萬餘斤 前年に比し増加 三千餘斤  
 價額 二萬餘圓 同 減少 七百餘圓

米國產の入減も英印產の入増に補はれ、輸入高は前年と大差なく右の結果を齎したが、移入高は四百六十一萬餘斤四十九萬餘圓で前年に比し六十五萬餘斤四萬餘圓の増加である、外國物は直接輸入の外、内地經由で移入されるものも少なくないが、本品は他の礦油と異なり比較的内地產の勢力優勢で、日石、小倉、旭等



揮發油同様輸入減退せしも、移入増加に依り輸入高に於ては前年より増加した、本品は云ふ迄もなく燈火用と趣を異にし主として船舶燃料用として需要せられ、其外上物は集魚用、下級品は殺虫用等に使用せられる、本年も之等の方面相當買進まれたのであるが、何分主要需要方面が近來重油動力機の顯著なる發展の反面から見て、將來大なる増加を期待し得ない状態にあるけれども、併し一面運輸機關の整備に伴はれ多少ながらも増進すべき可能性があるので勿論俄かに減退すまいと思はれる、市場は「ス社」のソコニー、「ラ社」の貝等販賣競争を見る外、内地産の割込に依り一層猛烈であるが、日本産の輕油では青全勝、別發、二發等日石物大部分を占め其他小倉の黒菊、旭の赤三合等移入せられる。

輸入輕油數量價額國別二年比較表

國別	數量(瓦)		價額(圓)	
	昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
英領印度	二四、六〇〇	二八、〇〇〇	△	一、三〇〇
北米合衆國	一七、〇六六	一〇九、五三三	△	六、六五四
計	四一、六六六	一三七、五三三	△	八、九〇四

移入輕油仕出地別數量價額二年比較表

仕出地	數量(瓦)		價額(圓)	
	昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
大阪	九、八八〇	二、八〇〇	△	一、〇〇〇
神戸	二、一〇〇	七、〇〇〇	△	一、八〇〇
横濱	七、二五〇	五、〇〇〇	△	一、九〇〇
東京	四四、九四七	七、五〇〇	△	二、四〇〇
下關	九、一三五	三、九〇九	△	一、四九九
門司	三六〇、九〇〇	四、八〇〇	△	一、四九三
其他	一、〇〇〇、九六六	二九〇、三六〇	△	二〇、九六三
計	四一、六六六	一三七、五三三	△	八、九〇四

輕油平均相場月別一覽表

品柄	單位	月												平均	前平均
		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月		
貝(蘭印産)	一罐	二、三〇	二、三〇	二、三〇	二、三〇	二、三〇	二、三〇	二、三〇	二、三〇	二、三〇	二、三〇	二、三〇	二、三〇	二、三〇	二、三〇
ソコニー	五瓦	二、三六	二、三六	二、三六	二、三六	二、三六	二、三六	二、三六	二、三六	二、三六	二、三六	二、三六	二、三六	二、三六	二、三六
二發油(内地産)	同	一、四〇	一、四〇	一、四〇	一、四〇	一、四〇	一、四〇	一、四〇	一、四〇	一、四〇	一、四〇	一、四〇	一、四〇	一、四〇	一、四〇

バラフ井ンワツクス

數量 五十四萬餘斤 前年に比し減少 二萬餘斤  
 價額 九萬餘圓 同 同 八千餘圓

本品は殆ど蠟燭原料として輸入され其外護謨靴工場等にも幾分使用されるが、大部分は當地「ライジンダサ  
 ン」及「スタンダード」兩石油會社の專屬工場に仕向くるものである、然るに蠟燭の需要は大勢に於て變り  
 ないけれども不景氣の爲賣行良好でなかつたから、努めて「ストック」品を以て需要に充てた關係もあり、且  
 つ近來低級なる内地産の壓迫もあつた模様で入荷減退した、而して入荷品の大部分が蠟燭製造に供せられる  
 關係上、度合は大低一定し夏向は百四十度程度、冬向は百二十度程度のもが多いと云はれて居る、相場は  
 御大典影響に依る前年の強含に反し金解禁、爲替高等直接影響の外、割安なる和製ステアリン蠟の急増に依  
 る間接影響等もあつて軟弱を辿つた。

輸入バラフ井ンワツクス數量價額國別二年比較表

國 別	數量(斤)		價 額(圓)	
	昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
關 領 印 度	四九、九三	三四、七四	△ 三、四、六二	九、三二
			増 減(△)	増 減(△)
			五、七六	△ 四、五七

英 領 印 度 北 米 合 衆 國 計	數量(方碼)		價 額(圓)	
	昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
	三〇六、一〇七	六、二五	三、七、八三	三、一、九
	一八五、三三	一七、五八	三、三、三〇	三、三、七
	五二、二七	五〇、四七	九、五三	一〇、八八
			△	△
			八、六七	

支 那 麻 布

數量 一百二十九萬餘方碼 前年に比し減少 七千餘方碼  
 價額 六十萬餘圓 同 増加 一萬餘圓

右の一部分は長崎を経由せるものもあるが大部分は上海航路に依つたものである、市況は支那動亂氣構や産  
 地生産減少見込から年初來入荷促進の狀勢を現はし、五、六月頃に至りては需要時期切迫と共に輸入業者の  
 買付旺盛を告げしも、下半期以來銀相場の續落に依る先安豫想と且つ仕入の一段落と相俟ち輸入手控を見る  
 に至つた、相場は實需不振の爲一般不況裡にも物に依つては手堅く、就中五百尺の如き新商標物恒盛同等の  
 賣出に依り鮮人購買欲を誘致して賣行良好に導き案外高値を維持したので結局叙上の結果を見るに至つた。

輸入支那麻布數量價額國別二年比較表

國 別	數量(方碼)		價 額(圓)	
	昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
			増 減(△)	増 減(△)

支那

一、五九、八〇〇

一、三七、四九九

△

七、六七九

六〇三、二〇五

五九二、六三三

一〇、六四二

支那麻布平均相場月別一覽表

品名	柄	單位	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均	前年
千尺夏布	一柄	円				八五、〇〇	八五、〇〇	八七、〇〇	八五、〇〇	八五、〇〇					八五、〇〇	八七、〇〇
怡和榮	一柄	円				一〇五、〇〇	一〇八、〇〇		一一〇、〇〇						一〇八、〇〇	一〇九、二五
京莊夏布	百反	円				六五、二五	六七、五〇	六九、〇〇	六七、〇〇	六四、五〇					六六、七五	六六、〇〇
聚昌	同	円				五五、〇〇	五六、〇〇	五七、〇〇	五五、〇〇	五五、〇〇					五五、〇〇	永餘祥 五、八〇
四川夏布	同	円														
元生利	同	円														
五百尺夏布	同	円														
恒盛	同	円														

石炭

數量 二萬三千餘噸 前年に比し減少 一千餘噸  
 價額 三十一萬餘圓 同 同 四萬餘圓

外國炭は撫順炭の外に鴻基炭の入荷をも見たが、撫順炭は朝郵船舶用等前年の如く大口取引を見ず、又鴻基炭は高値の爲賣行不良で前年來持越されたもの少くなかつた様で右の減少を示せるも、内地炭の移入高は十五萬餘噸一百五十四萬餘圓で前年に比し二千餘噸六萬餘圓を増加した、之は内地貯炭の増加並に外國炭入減

の結果反動的入増を促した譯である、大体本年の炭界は夏枯に次ぐに緊縮が崇つて、足取り極めて悪く地場工場向等概して不況に推移せしも、春寒長引きの爲暖房用等割合賣行良く地方仕向に於ては大邱方面製絲工場、專賣局工場向等相當纏つた取引を見た様である、相場は内地送炭制限の擴張を見下支への爲前年と略變りなかつたけれども、一般工業界不振の影響から九州炭の不勢に、加ふるに日貨排斥に依る支那に於ける賣行減等の關係から弾力乏しく一齊弱含みであつた。

輸入石炭數量價額國別二年比較表

國別	數量(噸)		價額(圓)	
	昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
支那	三三、三三三	二四、九六一	二九〇、二六七	三三三、七九九
佛領印度	一、〇〇〇	一、〇〇〇	二九、七〇〇	二九、五〇〇
計	三四、三三三	二五、九六一	三二〇、九六七	三六三、二九九

移入石炭仕出地別數量價額二年比較表

仕出地	數量(噸)		價額(圓)	
	昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
增				
減(△)				



品名	平均相場月別一覽表													
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均	前年
下關	360	360	360	360	360	360	360	360	360	360	360	360	360	360
門司	360	360	360	360	360	360	360	360	360	360	360	360	360	360
博多	360	360	360	360	360	360	360	360	360	360	360	360	360	360
長崎	360	360	360	360	360	360	360	360	360	360	360	360	360	360
其他	360	360	360	360	360	360	360	360	360	360	360	360	360	360
計	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000

石炭平均相場月別一覽表

品名	平均相場月別一覽表													
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均	前年
撫順切込	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000
筑豊切込	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000
同	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000	16,000

硝子板 (無色平面ノモノ)

數量 五十二萬餘方呎 前年に比し増加 三十八萬餘方呎  
 價額 三萬餘圓 同 同 三萬餘圓

本品は窓硝子大部分である、外國産窓硝子は内地産の壓迫を蒙り白耳義産は久しき以前に跡を斷ち、又一昨

年秦皇島耀華公司製品の杜絶以來、現在では大連昌光會社製品の入荷を見るだけであるが、製品の向上値段に依る外、内地産旭硝子と提携關係もあつて漸次勢力増加の状態にある、之が爲移入も減少を見たが、昌光製品も旭硝子も元々姉妹會社で歩調を揃へての對抗なれば、激甚なる競争は見られず市場平穩を辿り、賣値は終始内地品の騰落に追隨せしめ一函二、三十錢方の下値を唱へた、賣行は一般不況と緊縮に影響せられ活況を見ず、別けて内地品は少しく高唱の爲賣足鈍かつたけれども、消費方面は所謂文化住宅の増設に伴ひ洋風の模倣に依り舊來の建具まで窓硝子を使用する向多く、内、外産共大勢依然需要増進を促して居る、相場も金解禁、爲替關係に影響なく高値を持続し前年より一圓以上上値を示した。

輸入硝子板(無色平面)數量價額國別二年比較表

國別	數量(方呎)		價額(圓)	
	昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
支那	55,616	17,000	3,843	9,031
其他				
計				

移入窓硝子(無色平面)仕出地別數量價額二年比較表

仕出地	數量(方呎)		價額(圓)	
	昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
支那	55,616	17,000	3,843	9,031
其他				
計				

品名	昭和三年												前年	
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月		
大 阪	800													100
下 關	3,400													4,900
門 司	9,700													11,000
計	14,900													16,000

10%

窓硝子平均相場月別一覽表

品名	單位	昭和三年												前年
		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	
旭硝子	(一圓)	9,500	9,500	9,500	9,500	9,500	9,500	9,500	9,500	9,500	9,500	9,500	9,500	9,500
黑菱(内地産)	(改メ)	9,500	9,500	9,500	9,500	9,500	9,500	9,500	9,500	9,500	9,500	9,500	9,500	8,200

機 械 類

價額 十九萬餘圓 前年に比し減少 十二萬餘圓

本品中主なるものは紡績機械類であるが、當地紡績會社が増設工事の一段落に依り前年程の入荷を見ず、爲に減少を免れざりしも秋以來工事の續行に依り同工場向として給棉機、梳棉機、練篠機、始紡機、間紡機、棉花移送機、環錘精紡機、練紡機、荒打機、中打機、仕上打綿機等直接或は神戸經由にて移入せられたものも相當多く、其外目立つた輸入品は米國産石油發動機、瑞西産電氣會社用動力機等である、尙特種物としては米國製煙草卷機械用卷管、同電氣爐、送風機等神戸經由で輸入された、移入も一般機械力使用の増加と國産品愛用の擡頭と相俟つて入荷促進の傾向にあるも、本年は財界不況と緊縮に崇られ、特に鐵道方面の不振に局用品を首め私鐵用品等孰れも需要一服を告げ、前年一百万圓以上を算した機關車の如き本年の移入殆ど其の半にも達せず、爲に結局減退を示すに至つた。

輸入機械類數量價額國別二年對照表

單位 數量 價額 圓 斤

種別	英 吉 利 昭		北 米 合 衆 國 和		瑞 士 四		其 他 年		計		昭 和 三 年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
汽 輪 同 部 分 品 及 附 屬 品												
其 他 ノ 原 動 力 機												
唧												
金 屬 工 及 木 工 機 械	825	1,050	64	87					1,050	1,137	825	1,050
紡 績 機 械	37,633	17,013							37,633	17,013	37,633	17,013
其 他	8,600	11,718							8,600	11,718	8,600	11,718
計												

移入機械類仕出地別價額二年對照表 (圓)





品名	昭和四年		昭和三年		増減(△)	昭和四年		昭和三年		増減(△)
	量(百斤)	價	量(百斤)	價		量(百斤)	價	量(百斤)	價	
樺原(末口八寸以上)	五、六	一〇、三	五、五	一〇、三	五、五	一〇、三	五、五	一〇、三	五、五	一〇、三
太挽(四寸角二間物)	一、七	一、七	一、七	一、七	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇
松板(四寸小節)	八、五	八、五	八、五	八、五	八、一	八、一	八、一	八、一	八、一	八、一
豆原(末口八寸以上)	八、五	八、五	八、五	八、五	八、一	八、一	八、一	八、一	八、一	八、一
滿挽(四寸角二間物)	三、七	三、七	三、七	三、七	三、五	三、五	三、五	三、五	三、五	三、五
江板(四寸小節)	二、八	二、八	二、八	二、八	二、九	二、九	二、九	二、九	二、九	二、九
紅板(四寸小節)	二、八	二、八	二、八	二、八	二、九	二、九	二、九	二、九	二、九	二、九
松板(四寸小節)	二、八	二、八	二、八	二、八	二、九	二、九	二、九	二、九	二、九	二、九

豆 糟

數量 二百十二萬餘斤 前年に比し減少 十萬餘斤  
 價額 十萬餘圓 同 増加 九百餘圓

本品は陸路安東より輸入せられるものと海路大連より輸入せられるものとあるが、本年は安東地方仕出の輸入は皆無で殆ど全部海路大連積出のものであつた、併し叙上直接輸入の外に新義州に於て手續濟の上鐵路到着のもの約三百萬斤を算したが、之も前年より約二百萬斤の減少である、地場に於ける需要状況は低利資金に依る金融組合等の斡旋を蒙る外、地方農會等を利用して共同購入等の買付に依り相當纏つた入荷を見ることあるも、何分産地相場の逐年的漸騰並に化學肥料の普及等に依り年々漸減を辿りつゝあるは否めない事

實の様である、而も本年は米安、銀安に依つて市況一段振はず春肥、秋肥を通じて人氣頗る沈滞し、殊に秋肥季に於ける先安見越に入荷減退した、相場は大連市場の歐洲向大豆輸出の好勢から上半期手堅く保合ひしも、金解禁氣構、爲替昂騰に依る外肥の壓迫を受けて下半期に入り一途軟弱を示した。

輸入豆糟數量價額國別二年比較表

支那	昭和四年		昭和三年		増減(△)	昭和四年		昭和三年		増減(△)
	量(百斤)	價	量(百斤)	價		量(百斤)	價	量(百斤)	價	
支那	三、一〇三	一、一七〇	△	一、〇三〇	〇〇七、二〇〇	一〇三、二〇〇	一〇三、二〇〇	九七		

豆糟平均相場月別一覽表

品名	柄單位	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均	前年
南滿產	一枚	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇
玉糟並	一枚	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇

〔四〕 國別貿易

本年當港の對外國貿易に關し主要國別に輸出入品を表示すれば左の如くである。



品名	單位	數量		價額	
		昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
紙類	斤	1,942	4,026	592	1,599
時計、學術器、銃	斤	—	—	—	—
砲、船車及諸機械	斤	—	—	—	—
原木	立方尺	12,673	5,892	7,799	7,451
藻	枚	6,050	3,605	8,099	4,805
海菜	斤	4,604	9,703	—	—
其他ノ諸品	斤	—	—	—	—
小包郵便物	斤	—	—	—	—
再輸出計	斤	—	—	—	—

輸入主要品數量價額二年比較表

品名	單位	數量		價額	
		昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
粟	百斤	69,540	156,797	424,363	822,029
高粱	同	2,929	3,766	2,685	15,742
玉蜀黍	同	895	944	3,928	3,874
蕎麥	同	—	1,005	—	5,265

品名	單位	數量		價額	
		昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
黍	同	10,345	1,899	108,626	58,341
小豆	同	1,506	1,068	69,999	78,603
蠶豆	同	6,500	2,832	38,527	9,125
綠豆	同	2,101	2,832	15,971	20,632
落花生	同	699	632	6,524	9,195
胡麻子	同	5,326	3,521	58,461	46,131
胡椒	斤	97,623	76,923	9,252	5,647
天日鹽	斤	638,121	866,661	397,566	664,884
葉煙草	斤	89,627	355,624	2,000	98,002
藥材、化學藥、製藥及同調合品	斤	—	—	—	—
綿織絲(單絲)	斤	2,448	—	2,260	5,676
麻	同	16,348	—	104,437	—
支那麻布	方碼	30,641	6,122	10,940	—
其他ノ麻織物	同	1,299,800	1,307,429	603,205	592,562
石炭	噸	33,322	24,129	28,188	28,605
窓硝子	方呎	55,826	177,400	39,883	33,779
板料	立方尺	2,327	5,000	3,506	8,174
飼料	百斤	3,326	—	14,640	—

香港

輸出主要品數量價額二年比較表

品名	單位	數量		價額	
		昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
穀類	百斤	六,七六	三,六八	二五,五五	二一,七六
豆類	同	三,一〇七	三,三〇	一〇,九〇〇	一〇,九三
菜子類	同	三,二二五	七,〇〇	三三,二四	三三,六六一
其他ノ諸品	同			二七,六六	二六,九八
小包郵便物				一〇,八〇〇	一三,八三一
再輸入品				一〇,五五六	九,七七
計				二,七〇,七〇	二,七〇,七〇

輸入主要品數量價額二年比較表

品名	單位	數量		價額	
		昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
小包郵便物				一四,四一九	一四,一三
計				一四,四一九	一四,一三

英領印度

輸出主要品數量價額二年比較表

品名	單位	數量		價額	
		昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
砂糖	斤	一,一〇〇	一,一七三	三三	一,一八一
其他ノ諸品				二八,五五	一,三九九
計				二八,五五	一,一三

輸入主要品數量價額二年比較表

品名	單位	數量		價額	
		昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
小包郵便物				六,九八〇	一八,八四
計				六,九八〇	一八,八四







輸入主要品數量價額二年比較表

品名	單位	數量		價		額(圓)	
		昭和四年	昭和三年	增減(△)	昭和四年	昭和三年	增減(△)
原糖	斤	110,000	93,133	16,867	4,800	4,800	0
木	立方尺	1,419,333	933,333	486,000	4,800	4,800	0
計					83,600	8,600	75,000

比律賓 諸島

輸出主要品數量價額二年比較表

品名	單位	數量		價		額(圓)	
		昭和四年	昭和三年	增減(△)	昭和四年	昭和三年	增減(△)
小包郵便物					11,111	11,111	0
計					11,111	11,111	0

輸入主要品數量價額二年比較表

品名	單位	數量		價		額(圓)	
		昭和四年	昭和三年	增減(△)	昭和四年	昭和三年	增減(△)
業煙草	斤	235,833	55,633	180,200	5,833	10,433	47,767
計					5,833	10,433	47,767

暹羅

輸出主要品數量價額二年比較表

品名	單位	數量		價		額(圓)	
		昭和四年	昭和三年	增減(△)	昭和四年	昭和三年	增減(△)
小包郵便物					26,233	50,433	24,200
計					26,233	50,433	24,200

輸入主要品數量價額二年比較表

品名	單位	數量		價		額(圓)	
		昭和四年	昭和三年	增減(△)	昭和四年	昭和三年	增減(△)
計							



品名	單位	數量		價		額(圓)	
		昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
其他ノ毛織物(絹入及綿入トモ)	方碼	二、二八	二、二九	△	二、三二	五、九七	△
狀用油布及リノリニーム	斤	三九〇	一、四六	△	一、〇七	五、〇〇	△
ブランケット及旅籠	同		三〇四	△	三九	六五	△
其他ノ布帛	同		三〇四		二、九三	一、七四	△
其他ノ布帛製品	同				二、九三	七六	△
鐵道建設用材料	斤	五、八三			四、一〇	三三	△
其他ノ金屬製品	同				三六	二、一四	△
學術器及同部分品	同				三六	一、七〇	△
自轉車及同部分品	同				三六	二、一四	△
汽船同部分品及附屬品	同				三六	一、七〇	△
金屬工及木工機械	斤				一、〇九	一、二九	△
紡績機械類	同	三七、六三	當年ノ統計セズ		一、〇九	一、〇九	△
其他ノ機械及同部分品	同				八五	一、九三	△
其他ノ諸品	同				九八	一、〇一	△
小包郵便物	同				九八	一、〇一	△
計					三八、六五	五、三〇	△

佛 蘭 西

輸出主要品數量價額二年比較表

品名	單位	數量		價		額(圓)	
		昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
小包郵便物	同				八三	三三	△
計					八三	三三	△

輸入主要品數量價額二年比較表

品名	單位	數量		價		額(圓)	
		昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
引越荷	同				一	二、一五	△
小包郵便物	同				二、一〇	〇六	△
其他ノ諸品	同				四三	三九	△
計					六四	二、六〇	△

獨 逸

輸出主要品數量價額二年比較表

品名	單位	數量		價額(圓)	
		昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
小包郵便物				七三	五五
計				七三	五五

瑞 西

輸入主要品數量價額二年比較表

品名	單位	數量		價額(圓)	
		昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
爆發藥	斤	六七		三,100	
學術器及諸機械類				三,一五九	一,六四三
硫酸肥料	百斤	八,四六七	三,三三三	五五,000	二六八,六四四
其他肥料	同		一,七三三		一九,一四三
其他諸品				三,二九九	三八
計				六四,六六八	二六九,六六八

輸出主要品數量價額二年比較表

品名	單位	數量		價額(圓)	
		昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
小包郵便物				三六	三六
計				三六	三六

輸入主要品數量價額二年比較表

品名	單位	數量		價額(圓)	
		昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
綿平織布	方碼	二一,五四	一七,八三	四四,六三五	三二,一八二
原動力機	斤	八,八六		五,四三三	
唧筒	同		一,七四		一七四
其他機械及同部分品				四八	一三,七
其他諸品				一六	一〇五
計				四九,〇〇	四六,〇九

西 班 牙

輸出主要品數量價額二年比較表

品名	單位	數量		價額(圓)	
		昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
小包郵便物					
計				五	五

輸入主要品數量價額二年比較表

品名	單位	數量		價額(圓)	
		昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
葡萄酒	升	六六	一〇三	三三	三六
其他ノ糖	斤		九八、七〇	三三	八、六六
計				八、六六	八、六六

北米合衆國

輸出主要品數量價額二年比較表

品名	單位	數量		價額(圓)	
		昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
魚介罐詰	打	一一、〇七	一、三六	三三、六五	四、八〇〇
土狀黑鉛	百斤	一一、五〇	一七、七九	四〇、八五〇	三七、九一四
其他ノ諸品				三〇	六、二九
小包郵便物				一一、〇一	一、〇一
計				一四、〇八	一、〇一

輸入主要品數量價額二年比較表

品名	單位	數量		價額(圓)	
		昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
小麥粉	斤	一、六八〇	八、二五	一、六八〇	七、四三
コンテンスド				一、六八〇	四、一六
鹽	同	六、一〇〇		六、一〇〇	三、七六
鹽	同	二、四九〇		二、四九〇	三、四〇
葉煙草	同			三、四〇	三、四〇
原油及重油	瓦	一五、三五	四、七九	一〇八、七六	七、八九





輸入主要品數量價額二年比較表

品名	單位	數量		價額(圓)	
		昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
鹽	斤	30,000		1,350	
原木	立方尺	3,679		17,048	
挽材	同	80,269		5,085	
板	同	2,923		6,439	
小包郵便物	同			150	
計				19,022	
				1,350	
				17,048	
				5,085	
				6,439	
				150	
				19,022	

濠太刺利

輸出主要品數量價額二年比較表

品名	單位	數量		價額	
		昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
蠶繭	打	100		3,150	
小包郵便物	同			1,500	
計				4,650	
				3,150	
				1,500	

計

四、五五六

八五五

三、六五五

輸入主要品數量價額二年比較表

品名	單位	數量		價額	
		昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年
布帛及同製品				1,556	
學術器					
其他ノ諸品				816	
計				9,311	
				1,556	
				816	

保稅工場

輸出せるものなし

輸入主要品數量價額二年比較表

品名	單位	數量		價額	
		昭和四年	昭和三年	昭和四年	昭和三年



備考 移入小包郵便物には織物の分を含む、次表亦同じ。

仕向地及別釜山港移出入貿易額五年比較表 (圓)

仕向地別	昭和四年	千分比例	昭和三年	千分比例	昭和二年	千分比例	昭和元年	千分比例	大正十四年	千分比例
大阪	六〇、二六、六三三	二六三	五九、七六、九六六	二五七	五五、九〇、四三八	二三三	五八、八二〇、六四八	二五〇	五八、〇〇、六五九	二六四
神戸	二、二三、二二六	九	一七、八〇、四四五	七	一九、七七、四四五	八	三、三四、六八	九	二、八九、六三三	九
名古屋	四、八四、二四七	二〇	五、九七、一六三	二六	三、九〇、〇七	一七	三、五七、七二七	一六	三、七四、三三	一四
四日市	三、五、五六九	一	一、五、五二〇	一	一、四、六五	一	一、三、七二五	一	三、四九、〇三六	二
横濱	三、〇八、一三〇	一	二、二、四、六四七	一	二、九、五、四一	一	二、三、五、八九〇	一	八、八九四、三三	四〇
東京	三、〇三、五三三	一	二、四、六、四三三	一	三、五、六、六一	一	二、九、四、八九三	一	二、九、四、七七七	一
敦賀	一、八三、八六四	一	一、七、三、九八	一	一、三、三、八九九	一	一、〇、五、三三一	一	三、八、四、三	一
下關	六、一〇、一八八	七	一、八、三、三三九	八	一、八、七、六、八八	八	八、七、〇、五、八	八	一、八、〇、三、六八	八
門司	四、五、九、三九九	二〇	四、七、六、四三〇	一九	四、七、八、四三	二〇	四、三、三、五二九	一九	二、八、三、一、三三	一七
博多	五、六、六、一一三	二五	四、〇、八、五〇六	一七	四、三、八、二、四四	一九	三、六、〇、九〇一	一六	三、〇、六、四、六三	一四
長崎	一、八〇、九三三	八	一、七、九、二、二九	八	二、七、九、三、六八	三	一、五、八、九、〇四八	七	二、七、四、七、〇六	三
壱岐	一、五、九、二、五三	七	五、七、六、四三九	二	三、三、三、三、三	一	同	上	同	上
其	七、五、四、三、三三	三二	七、九、八、四、一八三	三四	八、五、三、八、六三三	三六	八、〇、九、三、〇九	三三	七、八、八、二、五四九	三五

小包郵便物	計	昭和四年	千分比例	昭和三年	千分比例	昭和二年	千分比例	昭和元年	千分比例	大正十四年	千分比例
小包郵便物	計	三三、〇八、二、三三〇	五七	二、八、四、八、四六六	五二	三、三、九、九、九六六	五	三、一、七、七、七三三	五	九、四、九、二、八五八	四
合計		三三、〇八、二、三三〇	五七	二、八、四、八、四六六	五二	三、三、九、九、九六六	五	三、一、七、七、七三三	五	九、四、九、二、八五八	四

〔二〕 移出貨物貿易

既記の通朝鮮經濟界は、金解禁を中心に幾多の波紋を描いて財界不況を招來せる内地に順應して大勢不振の域を脱しなかつたが、朝鮮としては昨年來の米不作に地方購買力の減退甚しく、爲に商況一般に活氣を缺ぎ當港としても漁業界、蠶業界の進展に依り之等の方面相當移出増加を促し、又朝博開催に依つて一時人氣を呼び取引上幾分好影響を蒙りしものなきにあらざれども、政府の緊縮政策と一般消費節約の徹底に連れ物價の續落、事業の休止繰延等から取引概ね不振の状態を續け、特に當港の主要商圏たる慶南、北の大旱害は移出米の激減を招致し移出貿易に大なる瘡痍を與へたので、結局本年の移出總額一億七百餘萬圓で前年に比し六百餘萬圓の減退を示した。

而して移出貿易額増減の顯著なるものを擧ぐれば、米、大豆共に南鮮産の減收に依つて積出甚だ振はず、鮮魚は沖合から沖合に渡る内地出漁船の發展に依つて、却つて減少を見、牛皮は内地皮革市場の不勢から、其他作柄の不良に原因する海藻類等孰れも出荷不振を呈すると共に、問題を惹起せし内地檢疫繫留期間の延長から一時移出中絶状態に陥つた牛の減少著しく、尙當港を通過する滿洲産柞蠶生絲も上海取引増進の反響を







計	百斤	
	昭和四年	昭和三年
計	四三,二五五	五六,七五五
其他ノ雜品	—	—
小包郵便物	—	—
全計	四三,二五五	五六,七五五
計	—	—
其他ノ雜品	—	—
小包郵便物	—	—
全計	—	—

當港本年の移出貿易額を仕向地別に調査するに、大阪との取引最も多く一千六百餘萬圓を算して首位を占め、亞で横濱、神戸の各一千一百餘萬圓、下關八百九十餘萬圓、東京三百七十餘萬圓、博多二百六十餘萬圓、門司二百餘萬圓、名古屋一百三十餘萬圓、長崎八十餘萬圓、臺灣三十餘萬圓等の順位で、之を前年に比較すると順位に於て筆頭たる大阪に依然動きはないけれども、前年全移出高の約四割を占めて一頭地を抜きしも本年は急轉一割強に低落し、其他の地方に於ても多少の變動を見たが、其内横濱の進境最も注目される、即ち著しく増加を見たのは横濱の一千餘萬圓、下關、神戸の各一百餘萬圓、博多七十餘萬圓、下つて長崎、敦賀の各十餘萬圓等で、減退した方では大阪二千七百餘萬圓、東京四百餘萬圓、名古屋二百餘萬圓、門司五十餘萬圓等が主なるものである、叙上増減の事情を主要取引品に就て見れば、神戸、横濱は生絲の出増目醒しく米、魚油等の減出を補ひて右の増加を示し、下關は大豆、林檎、明太魚卵等、又博多は米、大豆、木材等の出荷に依つて増進し、其他長崎は乾鰯、敦賀は肥料取引好況を呈した結果幾分増加を告げたが、著しく減退を示した大阪は海苔、繰綿等相當増出せしも米、大豆等の出荷減に依るもので、名古屋、東京孰れも米の移

出不振から前年の盛況に及ばず、門司の減少は海産物を主とし、四日市は肥料の出減を主因として多少減退した、左に仕向地別移出貿易額二年比較表を掲げる。

移出貿易額仕向地別二年比較表 (圓)

仕向地	移出貿易額	
	昭和四年	昭和三年
大阪	一六,一四三,一八八	四三,三九三,四七七
神戸	二,二三八,九九三	九,七七九,五七九
名古屋	一,一四四,五七七	三,九三三,九六六
四日市	四〇,四八八	一三三,六〇六
横濱	二,一九〇,六三三	七五九,三三八
東京	三,七五三,三三三	八,〇四八,八三三
敦賀	一,一九九,七〇七	二,一九五,五三三
下關	八,九一九,六四四	七,〇〇二,四三三
合計	一,七七一,三三一	一,七七一,三三一
仕向地	昭和四年	昭和三年
門司	二,〇七八,九六六	二,六三三,三七七
博多	二,六二九,五八四	一,八七九,四九七
長崎	八三三,九六八	六〇〇,三三三
臺灣	三三九,二二二	三三〇,五九九
其他	三九,四三三,三三五	三二,六三三,九三三
小包郵便物	八,五九九,六九五	四,一七〇,六三三
合計	一,〇一,九三〇,〇六一	一,一〇,四〇〇,〇八八
増減(△)	—	—
増減(△)	—	—

◎移出重要品

米 及 粃





第三 内地貿易(貨物)

四國地方	計	五、九七五	一、七〇六	三、八〇五
坂出		四、〇八五	一、〇三三	三、二七二
宇和島		二、六四四	七、三三九	五、一七一
其他		七六六	八六六	一、七七一
本州西部地方	計	一六、四六三	九、一三一	二、八八五
下關		三三、二四六	八〇、三九九	一〇、一九三
大嶺		一	二、二七九	二、二六九
徳山		五、六五五	二、二四六	三、八二二
宇部		一、〇九六	一、五一一	二、六六六
廣島		四、二七六	六、六三三	二、二七七
福山		四、九四四	七、二二六	七、六六六
横川		六、九三九	五、八八一	三、八四四
宇品		九、五八九	二、二四七	三、〇〇九
尾道		一、九三三	八、六五七	八、〇〇〇
吉浦		四、四七三	四、一〇四	五、八五六
岡山		四、九四七	二、五三六	七、四八五

第三 内地貿易(貨物)

笠岡		九一	三、九三三	四、二〇二
神戸		一〇一、八三三	二五、〇九三	二九、九六一
蘆屋		九五	二、一八三	二、二八七
大坂		一、三三三	六、一七四	二、九五四
京都		四、一八三	六、九	五、〇一一
舞鶴		二、一七三	八、四四四	一〇、九七九
宮津		一、六一	一、九四二	二、一四〇
福知山		六七	二、八五三	三、五五六
其他		三三、三三三	三、四五六	三、五八八
計		四四、二二五	三三、八三五	三、四一三
本州中部地方			三、七二八	三、七二八
山田		一	一、三三二	一、三三二
名古屋		二七、三三三	一、三三二	三、四〇〇
横濱		一三、〇三三	一、九三三	一、四五六
東京		六九、二三三	四、三三三	六九、六八八
多治見		一	三、七三三	三、七三三
松本		二、六六六	三、五	三、一〇一
伊那大島		一	二、九七〇	二、九七〇
伊那八幡		一	三、八三三	三、八三三

第三 内地貿易(貨物)

伊那町	八六五	三、四九四	一四	四、三三九
飯田	一、二四九	一五、〇七七	一〇	一六、三二六
岡谷	二九一	三、一三三		三、四二四
市田		二、五七七		二、五七七
時又	三三	三、四六四		三、四九七
三留野	三	二、一七六		二、一七九
其留野	一六、五七七	二、〇七三		一八、六五〇
本州北部地方計	一三〇、五六一	四、五八八	一、二二一	一三二、三〇〇
北海道地方	次	二五		二五
函館	次	八、三〇〇		八、三〇〇
小樽	一六、五六七	二、八六六		一九、四三三
其他	一、四八八	四、四〇		五、八八八
樺太地方計	一八、三三三	一一、七一〇		二九、〇四三
臺灣地方		七五		七五
合計	六六五、四七五	四六六、三三三	一九、〇九六	一、一四五、九〇四

更に當港移出米を主要仕向地別に全鮮移出米と比較するに、全鮮の大阪仕向は二百三十九萬餘石で總移出高の四割三分を占め、次で京濱七十三萬餘石の一割三分、神戸も殆ど伯仲し、名古屋、四日市地方が三分、下關及門司、博多地方も亦略同様と云ふ順位なるに對し、當港の大阪仕向は二十九萬餘石で當港全移出高の二割六分に達し、神戸が十二萬餘石で一割一分、門司、博多地方九分、下關も大差無く、京濱七分、名古屋、四日市地方三分等の比率を示した、尙又各仕向地別に於ける數量割合から云ふと、當港の大阪仕向米が全鮮の大阪仕向米に對し一割二分に當り、神戸及名古屋、四日市地方が各一割八分、京濱一割一分、下關六割一分、門司、博多地方七割二分に當つて居るが、總移出高に於ては二割二分に相當する、即ち左の通り。

昭和四年釜山港及全鮮ノ移出米主要仕向地別數量對照表 (石)

仕向地別	米		其他ノ米		合計	
	釜山	全鮮	釜山	全鮮	釜山	全鮮
大坂	二、五三三、二八四	一、五二〇、二六七	二六、一七四	八二二、二八五	二、五五九、四五九	二、三九四、一四四
神戸	一、〇三、八三三	五六九、九三五	一五、〇五五	一四二、七五二	一、一八八、八八八	七九、五三三

名目	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年
名古	二七,一六三	一,三三二	一,四七五	三,四九一	一八六,八六五
四市	三,〇〇〇	九,九八	五,五三	八,四一六	七三,八九三
横濱	二二,〇三三	四,六三	四,八四	八,四一六	七三,八九三
東京	六九,二二二	四,六三	一,四	四,〇	四,〇三
敦賀	100	三〇〇	八〇	一七七	四,〇三
下關	二二,二四六	二,四,三五六	三九八	五,八七五	一〇二,九三
門司	二〇,九七〇	二九,八〇七	三,七六	五,八七五	一〇二,九三
博多	一三,四二五	四三,七七一	八八六	一〇八,〇五	一五〇,六三
長崎	一三,五五四	二四,八五四	五,七四	三,八八	三九四,三八
其他	六六,四七五	四六,二二	一九,〇九	一,四九,六三	五,五〇,九四
合計	六六,四七五	二,二七九,七三	二,三〇四,八六〇	一,一七,六三	一,二〇三,三三
米換算	六六,四七五	三,二七九,七三	三,三〇四,八六〇	一,一七,六三	一,二〇三,三三

次に輸移出月別経過を見るに、一月の十三萬餘石を最高に、二、三、四月は各十萬石以上を算したが、五月は九萬餘石、六、七月は各六、七萬石、八月四萬餘石、九月遂に二萬餘石に減少し、十月稍増加して六萬餘石其れより新米期に入り十一月十六萬餘石、十二月十九萬餘石と云ふ状況である、即ち春から夏にかけて相當數量を出穀して端境期に減少し、出來秋の新米は一時に多量移出され内地市場をも壓迫する勢であるのは全鮮的の趨勢であるのみならず、當港としても亦從來の例であつて順當の推移と見て差支ない様であるが、併し乍ら前半平凡な商狀を受けて後半波瀾高を告げたに拘らず、需給不振の狀態は相場關係を超越し、九月の如き減穀期とは云へ二萬餘石の出荷に過ぎない貧弱さで、不況の深刻を思はせると共に平均賣出も根本に溯つて助長の必要があるから近頃朝鮮米統制問題の擡頭となつた譯である、尤も此の問題は施設上幾多議論があ

つて残されて居る。

釜山港輸移出米數量月別五年對照表 (石)

月次	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年
一月	一三,〇六七	一三,七〇八	一〇,一七一	一七,三三	一四,七八
二月	一〇,一五〇	一五,八〇〇	一六,三三六	一五,九九	一七,三三
三月	二九,九三三	一四,七五六	一八,九二四	一四,三五六	二九,五六
四月	二七,五七八	一五,四〇四	一四,六一五	一三,〇五六	一五,七二
五月	九五,九五	二六,六七	二六,六九	一〇,三三四	二六,六三
六月	六七,七三六	一四,二〇〇	一〇,四四	九,三二五	一〇,五〇
計	六九,一〇	九八,三五	九九,四五	八〇,八三	七六,五八
七月	七,五〇〇	九三,九七七	八五,四八	四七,七三	五,三二
八月	四三,三二	八六,一九五	六六,二三	四三,八三	四三,三五
九月	二六,六五	七五,二五〇	八七,二六	六〇,九九	六七,六〇
十月	六五,八五	四,三六五	七八,〇一一	六二,二三	五一,五〇
十一月	一六五,一一	一六四,六二五	一九〇,一五	二二〇,四三	一六四,六二
十二月	一九〇,七三	二六,三三	二九九,八六	二九八,一〇	三三,三〇
計	一,五〇,一三	六三,三四	八〇,六八	三三,八五〇	六二,五九

合計	1,101,192	1,171,179	1,174,133	1,153,633	1,161,167
平均	100,192	117,118	117,413	115,363	116,167

備考 一、輸移出高は總て玄米に換算せるものを掲げた。

二、觀察の便宜上各年共輸出米を加算してあるが本年は精米で僅か二十石含んで居る。

朝鮮米本年の實收高は一千三百七十萬餘石で、前年に比し十九萬餘石即ち一分四厘の增收を示したが、南鮮四道の旱害多大で就中慶南、北、全南の三道が被害最も甚しく、特に之等の地方は鮮内に於ける米産地なる關係上平年作に比し減收百八十八萬餘石に達し、中部五道に於ける減收高二百三十八萬餘石に比し七割位に相當するけれども、其の被害地域が狭小である丈寧ろ影響の激甚なるものがあり、且つ之等の旱害地域を背景とする當港輸移出米は最も痛烈なる打撃を蒙り、輸移出高百二十萬餘石で前年より五十餘萬石も減退したのは己むを得ない成行であると共に、前年七百萬石を突破した全鮮輸移出米も本年五百七十餘萬石に減少を見るに至つた、右の事情で全鮮生産高に對する輸移出高歩合關係等に於ても多少變動を見た、今全鮮生産高に對する全鮮及當港輸移出米歩合並に全鮮輸移出米に對する當港輸移出米歩合等既往五ヶ年に於ける經過を示せば左の如くである。

生産及輸移出米數量五年對照表 (石)

區別	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年
全鮮生産高	1,371,766	1,351,755	1,729,887	1,500,067	1,477,101
全鮮輸移出高	5,761,196	7,014,788	6,465,610	5,762,667	4,755,905
釜山港輸移出高	1,101,192	1,171,179	1,174,133	1,153,633	1,161,167
前年ノ全鮮生産高ニ對スル全鮮輸移出高歩合	0.416	0.406	0.373	0.384	0.315
前年ノ全鮮生産高ニ對スル釜山港輸移出高歩合	0.079	0.101	0.117	0.108	0.101
全鮮輸移出高ニ對スル釜山港輸移出高歩合	0.101	0.150	0.177	0.177	0.160

備考 一、大正十三年の全鮮生産高は一千三百二十一萬九千三百二十二石である。  
二、輸移出高は總て玄米に換算せるものを掲げた。

次に全鮮の輸移出米に就き鮮内主要港に於ける消長を表示すれば左の如くである。

輸移出米數量全鮮主要港別五年對照表 (石)

港別	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年
釜山	1,149,833	1,171,179	1,170,955	1,153,633	1,161,167
釜山	565,803	565,611	491,110	515,744	518,640
木浦	101	80	80	59	70
釜山	208	248	276	268	294
釜山	1,149,833	1,171,179	1,170,955	1,153,633	1,161,167
釜山	565,803	565,611	491,110	515,744	518,640
木浦	101	80	80	59	70
釜山	208	248	276	268	294

種別	昭和四年		昭和三年		昭和二年		昭和元年		大正十四年	
	釜山	全鮮	釜山	全鮮	釜山	全鮮	釜山	全鮮	釜山	全鮮
馬山	1,942,250	1,230	2,088,991	2,370	1,670,477	2,670	2,111,101	2,310	1,033,456	2,310
仁川	1,265,455	3,300	1,484,039	3,330	1,778,041	3,330	1,219,155	3,310	1,886,110	2,540
群山	1,250,933	3,260	1,621,588	2,600	1,471,943	2,390	1,375,455	2,470	997,769	2,290
元山	333,566	770	778,811	2,320	1,137,700	2,100	1,100,740	2,400	96,465	2,320
清津	279	1	1,350	1	2,059	1	1,831	1	26	1
新義州	90,190	260	42,845	60	6,336	1	57,399	10	26,750	60
鎮南浦	93,966	175	48,408	140	795,310	2,290	67,396	109	48,290	106
其他	26,795	30	97,899	150	35,302	60	26,290	50	34,588	80
合計	5,500,945	1,000	6,716,255	1,000	6,126,145	1,000	5,500,945	1,000	4,581,285	1,000

備考 本表は玄米に換算せず。

輸移出米種別に就ては當港としても亦全鮮的にも玄米最も優勢であつて、増減の事情も概して玄米の上に現はれるのであるが、本年當港に於ける玄米と精米との輸移出比率は前者五割五分と後者四割三分の割合で、前年に比しては玄米に於て四分四厘の増、精米に於て三分五厘の減を示した、試に輸移出米種別數量及玄米精米數量歩合五ヶ年經過を見るに左の如くである。

釜山港及全鮮輸移出米種別數量五年對照表 (石)

種別	昭和四年		昭和三年		昭和二年		昭和元年		大正十四年	
	釜山	全鮮	釜山	全鮮	釜山	全鮮	釜山	全鮮	釜山	全鮮
支米	6,600,475	3,280,523	8,917,790	3,949,700	8,833,321	3,442,393	9,562,055	3,433,388	9,773,300	3,767,301
精米	4,666,233	2,081,582	7,040,578	2,563,025	7,467,755	2,612,722	5,057,211	2,006,777	3,707,103	1,669,066
碎米	39	2,324	82	3,677	299	723	1,911	2,625	499	2,725
其他	6,401	99,005	15,194	217,473	17,106	85,417	13,435	89,111	14,775	75,522
合計	11,274,808	5,464,435	16,176,108	6,737,631	17,012,955	6,126,145	14,685,888	5,500,945	14,587,187	5,466,286
玄米換算	1,102,299	5,782,166	1,755,299	7,014,788	1,792,133	6,445,622	1,542,682	5,722,607	1,321,160	4,776,885

輸移出玄米及精米數量歩合全鮮及釜山港五年對照表 (千分比例)

種別	昭和四年		昭和三年		昭和二年		昭和元年		大正十四年	
	全鮮	釜山	全鮮	釜山	全鮮	釜山	全鮮	釜山	全鮮	釜山
支米	567	553	53	509	530	495	594	622	564	76
精米	400	432	409	466	449	488	365	364	397	270

當地米穀市場に於ける本年の賣買高を見るに合計四十五萬餘石で前年に比し十七萬餘石の減少である、右は

大旱魃の影響を受け南鮮米廻着薄に基因せる現象に外ならないのであるが、賣買状態は移出口の需要順調で前年末より四、五月頃迄は漸次増加の趨勢なりしも、爾來減少し八月以降は前年の半量に達せず、年末出廻盛期に於ても僅かに四割内外に過ぎない不況に了つて居る、尤も米の内地取引は當地市場を經由せざる産地直接取引もあることなれば、此の賣買高の増減は輸移出米の消長と常に必しも一致しないのは勿論である。

釜山穀物市場賣買米數量種別五年對照表 (石)

種別	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年
種別	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年
支米	四四七,七六一	六四〇,二九七	五九〇,六六六	四四七,〇〇一	四〇七,四〇七
精米	五〇〇	五八	三二	三二七	三〇六
中白米	三七	三五	三五	三五	四五
碎米	三	元	元	元	元
其他	—	—	—	—	—
合計	四四八,〇四〇	六四〇,八八〇	五九一,〇〇〇	四四七,〇〇一	四〇七,四〇七
合算	四四八,〇四〇	六四〇,八八〇	五九一,〇〇〇	四四七,〇〇一	四〇七,四〇七
米換算	四五五,五二二	六五二,八六六	五九一,七五七	四五五,五二二	四〇五,一八一

備考 右は直取引出來高である。

更に本年中の當港廻着米を調査するに左表の如く海陸共著しき減退を示して居る。

鐵路廻着米數量月別二年比較表 (石)

月次	昭和四年	昭和三年	増減(△)	月次	昭和四年	昭和三年	増減(△)
一月	一一〇,〇〇一	一七一,〇〇〇	△	八月	一七,七二七	五〇,〇〇一	△
二月	七五,九二七	一五,九二二	△	九月	一七,九〇一	五二,四三三	△
三月	八七,七九五	一一四,四六六	△	十月	五,七〇〇	六二,〇一九	△
四月	六五,六四五	一〇〇,七六七	△	十一月	一六,三三四	一六,四七四	△
五月	四六,四九九	六三,七二二	△	十二月	一六,五五九	一九,八〇八	△
六月	二六,九二二	六〇,三〇一	△	合計	四三〇,一〇八	五六八,四〇〇	△
七月	二五,二七七	三三,六〇三	△	平均	八八,六二六	一〇一,四一〇	△
合計	四一四,七〇一	六四六,四六四	△	平均	七〇,七四四	一〇一,四一〇	△

備考 本表には釜山、草梁、釜山鎮三驛の地着米及釜山驛に於ける船車連帯のものゝ深山連帯のものゝを含む、次表亦同じ。

鐵路廻着米數量仕出驛別二年比較表 (石)

驛名	昭和四年	昭和三年	増減(△)	驛名	昭和四年	昭和三年	増減(△)
龜浦	六,三三九	一六,三三四	△	龜尾	一三,八九〇	三三,〇八八	△
勿禁	三二,〇六九	二六,四三三	△	大新	一四,七五九	一六,三七八	△

第三 内地貿易(貨物)

仕出港名	昭和四年	昭和三年	増減(△)	仕出港名	昭和四年	昭和三年	増減(△)
洛東江	三,二二六	四,三九六	△	金泉	四,九三三	六,七五五	△
進永	三,七九六	三,二六八	△	黃潤	八,五七六	二,五〇〇	△
密陽	四,一四八	六,九〇八	△	永同	七,〇五九	二,二五六	△
楡川	三,八八五	六,〇〇三	△	沃川	八,九六六	二,一九四	△
清道	三,六九二	三,六九〇	△	大田	三,七四四	六,〇一六	△
慶山	一四,八六一	二六,〇四五	△	鳥致院	五,七六〇	四,八九六	△
大邱	一四,〇三二	三〇,八八八	△	新義州	二五,五三三	八,七三六	△
倭館	二二,〇〇〇	三,四〇〇	△	其他各驛	二〇,五五六	二,六二一	△
若木	三,四五六	一四,四六四	△	合計	四八,九七〇	一,三四八四	△

一六四

海路廻着米數量仕出港別二年比較表 (石)

仕出港名	昭和四年	昭和三年	増減(△)	仕出港名	昭和四年	昭和三年	増減(△)
龜浦	七,九一〇	一〇,三三三	△	三千浦	三〇,六三三	三,一四〇	△
金海	二五,〇一〇	四五,一〇〇	△	船津	一四,八〇九	三,七六三	△
馬山	一六,五〇五	四四,二五五	△	泗川	四,八二二	一,九二〇	△
鎮海	一,三九五	二,八九二	△	昆陽	一,九三三	三,八〇〇	△
統營	二,三二〇	一五,三二二	△	光陽	三,三三八	四,〇九八	△

仕出港名	昭和四年	昭和三年	増減(△)	仕出港名	昭和四年	昭和三年	増減(△)
南海	三,六二七	七,〇〇五	△	順天	五,一九六	一三,五三三	△
固城	六,一六〇	一〇,五〇五	△	順橋	一三,〇〇〇	一七,〇七五	△
露梁	三,一八八	一三,〇三三	△	長興	三三,一〇〇	三三,一〇〇	△
河東	二,一三〇	二六,〇〇〇	△	蔚山	三,三四八	六,七二四	△
麗水	一六,五三〇	二二,四六六	△	蔚山	一五,三四五	三〇,五一一	△
江口	二,七九〇	五,八三三	△	大津	一,三九三	二,二二九	△
浦項	一八,三三三	一九,二二四	△	注文津	四,五八九	四,四四〇	△
竹邊	二,〇〇〇	四,五三三	△	其他	二〇,八〇六	四,八七二	△
安木	六,三〇〇	一三,一九九	△	合計	二九,〇三三	五七,〇八八	△
大浦	三,四三三	五,三三六	△				

備考 調査困難のものに就ては見込額を計上した。

玄 米

數量 六十六萬餘石 前年に比し減少 二十二萬餘石  
 價額 一千七百六十五萬餘圓 同 六百十四萬餘圓

内地は年々朝鮮米に對する理解が進むに連れ需要増加し、本年も前年に見ない新規の地方に進出したのであるけれども、何様本年の朝鮮米は激甚な旱害を受けた不作米として、品質並に歩止り懸念から各地とも酒造

方面の評判甚だ面白くなかつた、殊に前年は端境期を目標に突風の買占團の出現に依つて東京方面意外の取引を見たが、本年は金解禁不安人氣に依つて一向假需要が起らず、且つ廻着米の産地逆送等需給狀勢の變調に依り内地に追隨せず地場獨特相場を現はし、旁た新米は合格米が少く内地米に比し割高を持続した結果、鮮米人氣は著しく減殺され漸次引合困難に陥り年末に至りては買戻しや解約が續出する有様で、出廻りに於て手持を軽くすることに努めたことは例年に見ない狀況であつた。

次に米價の推移を観るに、凶作尻を受け春來相當高値を孕む成行であつたが、何分内地米が平年作以上の收穫であり一昨年來の古米豊富にも抑制され、上半期は穀良二等玄米二月の二十六圓四十錢を安値に、六月の二十七圓五十錢を高値として僅に一圓見當の高下に過ぎず、而も減收の割合に出過の關係もあつて下半期は鮮内至る處正米は拂底し、八月から九月にかけては各集散市場の停滯米を再び産地に買戻すと云ふ近年稀に見る現象を呈したのである、其れが爲當地市場も九月下旬には三十圓の高値を出現したが、之は古米と新米の過渡期に於ける一時的の現象に過ぎなかつたので、新米の出廻増と共に更に低迷狀態を辿り年末遂に二十六圓臺の安値に落込んだ、全年を通ずれば二十七圓四十九錢の平均値が出て前年より五錢見當上値である、左に月別輸移出高并に平均相場對照表を掲げる。

輸移出玄米數量月別五年對照表 (石)

月	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年
一	八、三三二	一三三、三三七	一三三、〇五五	一一八、一〇〇	一一七、四五六
二	五九、九二九	六九、三八四	一〇四、〇〇〇	一一八、〇〇〇	八一、三四六
三	七〇、八三三	五五、〇〇〇	八二、八四六	九八、四三六	九三、四七八
四	七三、七一五	六八、四〇七	七六、二四〇	七七、六〇九	一一六、四二二
五	五九、九四七	五二、一四六	八〇、九五六	四九、八五六	八一、八七三
六	三三、四四二	七、〇四〇	三〇、八三三	四三、八〇五	七、三四三
七	三七、七三三	四七、四八八	五九、九七六	五〇、〇〇〇	五七、八八九
八	一九、七六七	三九、〇六四	三三、〇一〇	一八、七五六	三三、四三三
九	三二、三三九	四〇、〇〇〇	三二、五九六	三二、一〇〇	三二、八三一
十	三三、七〇〇	三三、三三五	三〇、九七七	二九、三三七	三二、一〇〇
十一	九二、八六三	四八、二九三	三三、七三三	二六、六二六	二七、三三三
十二	九三、〇四九	一〇〇、六七五	九三、九六一	一五七、九九七	一一四、七七七
合計	二八八、七九〇	一八二、七二〇	一五九、六四一	一四〇、〇一九	一六五、九三三
平均	六四、四七五	四四、四三三	三七、六四五	四九、〇〇〇	四〇、四八八
合計	五五、三七三	七四、三二五	七三、〇〇二	七九、八五〇	八一、四四八

備考 觀察の便宜上各年共輸出米を加算してあるが本年は皆無である。



當地玄米平均相場月別二年比較表 (一石建)

月別	昭和三十四年		昭和三十五年		昭和三十六年		昭和三十七年		昭和三十八年		昭和三十九年		昭和四十年	
	二 等	三 等	二 等	三 等	二 等	三 等	二 等	三 等	二 等	三 等	二 等	三 等	二 等	三 等
一月	二六、五三	二七、四〇	二六、五三	二七、四〇	二六、五三	二七、四〇	二六、五三	二七、四〇	二六、五三	二七、四〇	二六、五三	二七、四〇	二六、五三	二七、四〇
二月	二六、四〇	二七、二七	二六、四〇	二七、二七	二六、四〇	二七、二七	二六、四〇	二七、二七	二六、四〇	二七、二七	二六、四〇	二七、二七	二六、四〇	二七、二七
三月	二六、四〇	二七、二七	二六、四〇	二七、二七	二六、四〇	二七、二七	二六、四〇	二七、二七	二六、四〇	二七、二七	二六、四〇	二七、二七	二六、四〇	二七、二七
四月	二六、五五	二七、四二	二六、五五	二七、四二	二六、五五	二七、四二	二六、五五	二七、四二	二六、五五	二七、四二	二六、五五	二七、四二	二六、五五	二七、四二
五月	二六、七〇	二七、五七	二六、七〇	二七、五七	二六、七〇	二七、五七	二六、七〇	二七、五七	二六、七〇	二七、五七	二六、七〇	二七、五七	二六、七〇	二七、五七
六月	二六、五三	二七、四〇	二六、五三	二七、四〇	二六、五三	二七、四〇	二六、五三	二七、四〇	二六、五三	二七、四〇	二六、五三	二七、四〇	二六、五三	二七、四〇
七月	二六、五三	二七、四〇	二六、五三	二七、四〇	二六、五三	二七、四〇	二六、五三	二七、四〇	二六、五三	二七、四〇	二六、五三	二七、四〇	二六、五三	二七、四〇
八月	二八、五〇	二九、三七	二八、五〇	二九、三七	二八、五〇	二九、三七	二八、五〇	二九、三七	二八、五〇	二九、三七	二八、五〇	二九、三七	二八、五〇	二九、三七
九月	二九、四二	三〇、二九	二九、四二	三〇、二九	二九、四二	三〇、二九	二九、四二	三〇、二九	二九、四二	三〇、二九	二九、四二	三〇、二九	二九、四二	三〇、二九
十月	三〇、四五	三一、三二	三〇、四五	三一、三二	三〇、四五	三一、三二	三〇、四五	三一、三二	三〇、四五	三一、三二	三〇、四五	三一、三二	三〇、四五	三一、三二
十一月	二六、二六	二七、一三	二六、二六	二七、一三	二六、二六	二七、一三	二六、二六	二七、一三	二六、二六	二七、一三	二六、二六	二七、一三	二六、二六	二七、一三
十二月	二六、六三	二七、五〇	二六、六三	二七、五〇	二六、六三	二七、五〇	二六、六三	二七、五〇	二六、六三	二七、五〇	二六、六三	二七、五〇	二六、六三	二七、五〇
平均	二七、四九	二八、三六	二七、四九	二八、三六	二七、四九	二八、三六	二七、四九	二八、三六	二七、四九	二八、三六	二七、四九	二八、三六	二七、四九	二八、三六

當地玄米平均相場十年對照表 (一石建)

年次	昭和四年		昭和三年		昭和二年		昭和元年		大正十四年	
	二 等	三 等	二 等	三 等	二 等	三 等	二 等	三 等	二 等	三 等
昭和四年	二七、四九	二八、三六	二七、四九	二八、三六	二七、四九	二八、三六	二七、四九	二八、三六	二七、四九	二八、三六
昭和三年	二七、四九	二八、三六	二七、四九	二八、三六	二七、四九	二八、三六	二七、四九	二八、三六	二七、四九	二八、三六
昭和二年	二七、四九	二八、三六	二七、四九	二八、三六	二七、四九	二八、三六	二七、四九	二八、三六	二七、四九	二八、三六
昭和元年	二七、四九	二八、三六	二七、四九	二八、三六	二七、四九	二八、三六	二七、四九	二八、三六	二七、四九	二八、三六
大正十四年	二七、四九	二八、三六	二七、四九	二八、三六	二七、四九	二八、三六	二七、四九	二八、三六	二七、四九	二八、三六

次に本道穀物検査所に於ける検査數量及當地穀物市場に於ける賣買高並に當地營業倉庫の月末在庫高に就き掲表する。

慶尙南道穀物検査所(釜山)玄米検査數量二年比較表 (噸)

種別	昭和四年		昭和三年		増減(△)
	檢査總數	合格格	檢査總數	合格格	
合格格	三〇、二六八	三〇、二六八	二九、七二九	二九、七二九	五三九
不合格格	二六、五	二六、五	三	三	二六二
檢査總數	三〇、三三三	三〇、三三三	二九、七三二	二九、七三二	六〇一

同 上(慶尙南道)同 數量二年比較表 (噸)

種別	昭和四年		昭和三年		増減(△)
	数量	價格	数量	價格	
適合	1,700,000	1,700,000	2,150,000	2,150,000	△
不合	2,300,000	2,300,000	2,100,000	2,100,000	△
検査總數	4,000,000	4,000,000	4,250,000	4,250,000	△

釜山穀物市場賣買玄米數量月別二年比較表 (石)

月別	昭和四年		昭和三年		増減(△)
	数量	價格	数量	價格	
一月	500,000	500,000	670,000	670,000	△
二月	300,000	300,000	490,000	490,000	△
三月	450,000	450,000	510,000	510,000	△
四月	400,000	400,000	480,000	480,000	△
五月	550,000	550,000	610,000	610,000	△
六月	200,000	200,000	280,000	280,000	△
七月	300,000	300,000	370,000	370,000	△
計	2,600,000	2,600,000	3,000,000	3,000,000	△

備考 右は直取引出來高である。

釜山六營業倉庫月末在庫玄米月別二年比較表 (石)

月次	昭和四年		昭和三年		増減(△)
	数量	價格	数量	價格	
一月	1,500,000	1,500,000	1,100,000	1,100,000	△
二月	1,400,000	1,400,000	1,000,000	1,000,000	△
三月	1,400,000	1,400,000	1,000,000	1,000,000	△
四月	1,400,000	1,400,000	1,000,000	1,000,000	△
五月	1,200,000	1,200,000	900,000	900,000	△
六月	1,000,000	1,000,000	800,000	800,000	△
七月	1,000,000	1,000,000	800,000	800,000	△
平均	1,200,000	1,200,000	900,000	900,000	△

精米

數量 四十六萬餘石 前年に比し減少 二十六萬餘石  
 價額 一千三百二十三萬餘圓 同 七百八十七萬餘圓

朝鮮白としての南鮮米は、内地に於ても一層聲價を認められ工場米、軍需米として博多、佐世保、吳、飯田地方と相當大口取引を見たる外、本年は東拓の姉妹會社なる南洋興發會社方面の食糧米等多少纏まつた出荷を見たが、前年來の原料薄と内地安に制せられて商狀兎角不味を呈し、別けて新開拓地北海道地方の豊作か

ら取引不振を招き叙上の減少を見たのである、尤も本年の新米は凶作時に伴ふ玄米調製不良の關係上、多量に不合格米を生じ、慶北方面先づ悲鳴を揚げ禁止されて居る等外米の移出解禁陳情をなす迄に裾米續出に悩んだのである、勿論精米地としての當地は反對の氣勢を示したが、兎に角春來原料難に陥つた精米業者も之等外への買付に依つて益移出販路の擴張に努力した結果、新米期以來好勢を辿り前年に比しても二萬石内外増加の方であつた、相場の騰落は大体玄米と同一歩調を辿つて居る。

輸移出精米數量月別五年對照表 (石)

月別	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年
一月	四五、四六五	九〇、五二	六五、六〇六	四七、三三三	三三、三一
二月	三六、三六三	七三、〇七三	五八、四四五	三九、九五五	三〇、四二九
三月	四三、一七三	七九、三六三	九一、六四六	三七、五六八	三二、七九三
四月	元、八七〇	六、六八九	五九、二四二	四五、九六二	三〇、一九八
五月	三三、九〇〇	六七、六九〇	六九、七四四	四六、三六八	三〇、一四三
六月	元、三四四	六二、七六	六六、一八九	四二、七三	二六、七五
七月	三三、一四六	四〇、三三三	四九、八三二	三九、八七	一七、六三
八月	三〇、四八七	三三、八六一	四〇、〇〇	二五、二六	一三、六二〇
計					
平均					
均計					

月別	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十四年
九月	三三、〇六	五五、七五	四〇、八四一	二六、九六	三三、九一八
十月	二六、五九七	三九、四三三	四六、二一七	二九、四〇	一〇、〇一九
十一月	六三、九八	五五、八六	八三、〇三	五三、六五	四三、〇六
十二月	八四、七三	七三、四三	一一、〇〇七	八九、七九九	五九、三三
計	二〇、〇六	元、四一	三六、八三	二四、八四	一四、四一
平均	四六、三三	七四、五六	六六、七五	五五、七二	四七、一〇
均計	元、八三	六、三五	六五、六三〇	四二、一三	二六、九三

備考 觀察の便宜上各年共輸出米を加算してあるが本年は十月に四石、十二月に十六石含んで居る。

當地精米平均相場月別二年比較表 (一石建)

月別	昭和四年	昭和三年	騰落(△)	昭和四年	昭和三年	騰落(△)	昭和四年	昭和三年	騰落(△)
一月	三〇、一〇	三〇、三	△	二六、〇三	二六、九三	△	二七、五三	二六、四三	△
二月	三〇、三	三〇、七	△	二七、八〇	二七、〇	△	二七、〇	二六、七	△
三月	三〇、八	三〇、五	△	二七、八〇	二六、三	△	二七、〇	二六、一五	△
四月	三〇、六	三〇、七	△	二七、八〇	二六、七	△	二七、三	二六、八七	△
五月	三〇、一	三〇、七	△	二六、二	二六、七	△	二七、六二	二七、八七	△

平均	十二月	十一月	十月	九月	八月	七月	六月
三、〇三	二、八四	三、二二	三、〇三	三、〇三	三、〇三	三、〇三	三、〇三
三、〇三	二、八四	三、二二	三、〇三	三、〇三	三、〇三	三、〇三	三、〇三
三、〇三	二、八四	三、二二	三、〇三	三、〇三	三、〇三	三、〇三	三、〇三
三、〇三	二、八四	三、二二	三、〇三	三、〇三	三、〇三	三、〇三	三、〇三
三、〇三	二、八四	三、二二	三、〇三	三、〇三	三、〇三	三、〇三	三、〇三
三、〇三	二、八四	三、二二	三、〇三	三、〇三	三、〇三	三、〇三	三、〇三
三、〇三	二、八四	三、二二	三、〇三	三、〇三	三、〇三	三、〇三	三、〇三
三、〇三	二、八四	三、二二	三、〇三	三、〇三	三、〇三	三、〇三	三、〇三
三、〇三	二、八四	三、二二	三、〇三	三、〇三	三、〇三	三、〇三	三、〇三
三、〇三	二、八四	三、二二	三、〇三	三、〇三	三、〇三	三、〇三	三、〇三

當地精米平均相場十年對照表 (一石建)

年次	特等	一等	二等	年次	特等	一等	二等
昭和四年	三、〇三	二、八四	二、六五	大正十三年	三、〇三	二、八四	二、六五
同三年	三、〇三	二、八四	二、六五	同十二年	三、〇三	二、八四	二、六五
同二年	三、〇三	二、八四	二、六五	同十一年	三、〇三	二、八四	二、六五
同元年	三、〇三	二、八四	二、六五	同十年	三、〇三	二、八四	二、六五
大正十四年	三、〇三	二、八四	二、六五	同九年	三、〇三	二、八四	二、六五

次に本道穀物検査所に於ける精米の検査成績を觀るに次表の如くである。

慶尙南道穀物検査所(釜山)精米検査數量二年比較表 (噸)

種別	昭和四年	昭和三年	増減(△)
合格	九六、七三	一、四八、八六	△
不合格	五〇	一	△
検査總數	九六、七三	一、四八、八六	△

備考 合格米の内、三千斤袋入のものあれ共噸入に換算掲記した次表亦同じ。

同 上(慶尙南道)同 數量二年比較表 (噸)

種別	昭和四年	昭和三年	増減(△)
合格	九六、七三	一、六〇、八〇	△
不合格	五〇	一一	△
検査總數	九六、七三	一、六〇、九一	△

碎 米

數量 六千餘石 前年に比し減少 八千餘石